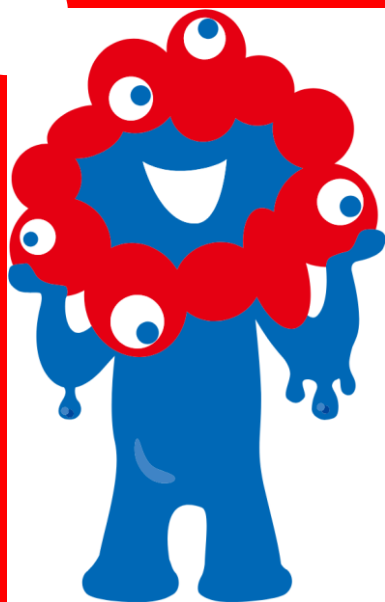


ちりレポ

第 23 号 電子版



はじめに

城北中学・高等学校地理部では、全部員が一丸となって全国津々浦々に足を運び歴史や地理、自然、産業を調査し学んでいます。この『ちりレポ』では私たちが学んだ内容をまとめ、地理部の活動を報告するための機関誌です。

今年度のちりレポは23号目となっており、奥多摩巡検、横浜巡検、春合宿、小田原巡検、夏合宿についてのレポートとなっています。

地理部には旅行好きで個性豊かな部員が集まっているのでちりレポでは多種多様なレポートを閲覧することができます。地理部の活動を通して得た智の結晶でもあるちりレポは部員達の誇りです。ちりレポを手に取り興味を持てた人は放課後、城北学園5階社会科ゼミ室にまで足を運んでみてください。

それではちりレポ第23号をお楽しみください。

2025年9月27日

城北中学校・高等学校地理部部長 新井 友翔

ちりレポ第 23 号 目次

はじめに	1
ちりレポ第 23 号 目次	2
 第一章：夏合宿～大阪・関西万博で世界を学ぶ	
.....	3
 第二章：春合宿～名古屋メトロポリタンエリア	
.....	43
 第三章：自然豊かな東京「奥多摩」	
.....	62
 第四章：横浜ベイエリアの考察	
.....	77
 第五章：小田原の地域性	
.....	89
 第六章：付記	
【夏休みの帰省】ねぶた祭りについて	107
副部長田畑裕理のフィールドノート	109
部員紹介	110
春合宿と夏合宿の実施要項	111
おわりに	114

第一章

夏合宿

～大阪・関西万博で世界を学ぶ～
(2025 年 8 月 4～6 日)



1. 20 年ぶりの日本開催!!大阪・関西万博!!

万博とは？ 文責：田畑 裕理・顧問 齋藤

万博とは、万国博覧会の略称で、現在の万博は 1928 年に締結された国際博覧会条約に基づいて開催されています。世界で初めて開催された万博は、1851 年に開催されたロンドン万博で「世界中のヒトとモノが会える場」として開かれました。これまで開催された万博では、世界各国が自国の威信を示したり、当時の最新技術を披露したりすることが中心でしたが、現在の万博は「現代社会の要請に応えられる今日的なテーマ」を定めて開催することが求められています。これまで日本では、1970 年に大阪で初めての万国博覧会が行われ、その後、1975 年に海洋博(沖縄)、1985 年につくば科学万博(茨城)、1990 年に花博(大阪)、2005 年に愛・地球博(愛知)が開催されてきました。今回の大阪・関西万博は国内で 20 年ぶり 6 回目の開催で「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、世界 158 の国と地域および、国際機関、民間企業、国内の自治体が参加しています。今回の 2025 年大阪万博でも「空飛ぶ車」をはじめとした未来技術や、独裁国家として「トルクメニスタン」がパビリオンを出しており話題となりました。今回のちりレポでは、各部員が興味関心を持った国について調べてレポートしています。

ドイツ 文責：薛 文森

①**ドイツ概要**—正式国名はドイツ連邦共和国、首都はベルリン。ヨーロッパ中部に位置し、北は北海、バルト海を臨む。面積は約 35 万 7,000km² で日本の約 94%、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、フランス、オーストリア、スイス、チェコ、ポーランド、デンマークの 9 ヶ国と国境を接している。人口は約 8,257 万人。

②**ドイツ政治**—ドイツは連邦制、議院内閣制、代表民主制の共和国である。ドイツの政治システムは 1949 年に発効された、憲法に相当するドイツ連邦共和国基本法の枠組みに基づいて運営されている。基本法改正にはドイツ連邦議会と連邦参議院で 3 分の 2 の賛成を必要としており、このうち「人間の尊厳の保証」「権力の分割」「連邦制」そして「法による支配」といった基本法諸原則は「永久化」され、侵害は許されないことになっている。

③**ドイツ地形**—北ドイツ低地は全体的に標高 100 メートル以下の平坦な地域で、エルベ川などの川沿いには丘陵地があり、バルト海沿岸は平坦な砂浜や、断崖をなす岩石海岸となっている。中部山岳地帯は、ドイツの西部と中部に広がり、地形的に峡谷や低い山々、盆地など変化にとん



【写真：ドイツの国土】

でおり、山地としては、中央部のハルツ山地、東部のエルツ山脈がある。南西ドイツ中部山岳階段状地域にはオーデンヴァルトや、シュヴァルツヴァルトの標高 1000 メートルを超える広大な森林がある。アルプスはドイツ国内ではもっとも標高が高い地域で、美しい数々の湖や観光地があり、オーストリアとの国境地帯にはドイツの最高峰ツークシュピッツェがそびえ立つ。

現在のドイツの地形を決定したのは新生代における褶曲運動である。アルプス変動帯の活動により、最南部は標高 1200 メートルにいたるまで隆起した。西部フランス国境に近いライン川に相当する位置にライン地溝を形成した。また北ヨーロッパ平野の地表は氷河地形の典型例であり、最終氷期においては氷河が発達し、数千キロメートル規模の末端堆石堤を残した。そのためモレーンが残り、末端堆石堤とモレーンの北側に沿っていずれも氷食性のレスが堆積し、農業に適さない土壌が広がる。ドイツに残る長大な河川はいずれも最終氷期の河川に由来するが、ポーランドのヴィスワ川、ポーランド国境に伸びるオーデル川、エルベ川、ドイツ西部のヴェーザー川が互いに連結し、網目状の流路を形成するなど、現在とは異なる水系が広がっていた。

④ドイツ文化ービール、ソーセージ、クリスマスマーケットなどの食文化やバッハやベートーヴェンといった偉大な作曲家によるクラシック音楽、メルヘン街道やロマンチック街道などの個性的な街道、そしてケルン大聖堂やノイシュバンシュタイン城などの美しい古城や世界遺産などで有名。

⑤「わ！ドイツ！」万博ドイツ館概要ードイツ館は、建築家 LAVA が設計を担当し、「循環経済（サーキュラーエコノミー）」をテーマにしている。特徴的なのは、7 つの円筒形の建物が組み合わせられた構造で、万博終了後に再利用可能な建材を使用することで、持続可能な建築のあり方を示すことを目指している。

「わ！ドイツ」というタイトルには、ドイツパビリオンのエッセンスが詰まっています。具体的に、「わ」が何を意味するかというと・・・「輪」はドイツパビリオンのテーマである循環経済の環（わ）を表している。「和」は循環経済が目指している自然と技術の調和を表している。「わ！」と思わず感嘆の声があがるような展示



【写真：ドイツのパビリオン】

であることを表している。

展覧会のコンセプトは、次の要素に基づいている。

サーキュラー：直訳すると、可愛いといえど「かわいい」「愛される」という意味である。かわいらしさの美学は、日本の生活の概念。

エデュテインメント：循環型社会の設計を取り巻く複雑なトピックを教えることは特に重要ですが、学習は遊び心のある方法で行うのが最善である。

イマージョン：来場者は、展覧会のテーマに完全に没頭することができる。ドイツパビリオンでは、すべての部屋が没入型の体験となる。

⑥感想—展示自体は要点だけ見れば 30 分程度



【写真：ドイツ館の展示】

の量ではあるが、展示が詳しく、映像や体験型コンテンツをじっくり楽しむなら 40～60 分ほどかかる。特に映像コンテンツやワークショップ、エネルギー体験型の展示では、1つ1つのブースで時間をかけて学べる工夫がされており、自然と滞在時間が延びる傾向にある。



【写真：ドイツ館のシンボル、3つの「わ」】

途中には、円形のソファが並びリラックススペースがあり（ありがたい。北欧館もあるよ）、壁のタッチパネルでオリジナルのサーキュラーをデザインし、大型ディスプレイに映し出せる楽しい仕掛けもある（おもしろかった）。

ピークタイムには入場まで1時間以上待つこともあり（筆者は40分ならんだ）、具体的には、午前10時から午後1時ごろにかけては非常に混雑しやすく、待機列が長くなる。

出口の外には「ガーデンエリア」もあり、ドイツ16州の特色を紹介する庭で、各州の自然や文化を映像と音で楽しめる。このゾーンは予約不要で、気軽に立ち寄ることも可能であり、加えて階段



【写真：マスコット】

の下にはステージがあり、ダンスなどのパフォーマンスも随時開催される。また館内には人気レストラン「Oishii! Germany」が併設されており、伝統的なドイツ料理から日本の食材を活かした創作メニューまで、多彩な料理が楽しめる（万博価額、s 顧問は 3000 円課金して本場のドイツビールを飲んだそう）。

最後に、展示がめちゃくちゃいいのでおすすめです。こんどの万博に行く機会がありましたら是非一度ドイツ館に行ってみてください。（ドイツ本国に訪問するなら事前準備をしっかりとっておいたほうがいいです。）

カザフスタン 文責：塚崎 瑛登

中央アジアに位置するカザフスタン、ここはシルクロードの途中にあり、古くから交易が盛んでした。カザフスタンを含む中央アジアの国々には〇〇スタンという名前の国が数多く存在していますが、これは〇〇人の国・土地という意味を持っています。すなわちカザフスタンはカザフ人によって建国された国ということです。

カザフスタン共和国は北にロシア連邦、東に中華人民共和国に接し、南東部に天山山脈が走っています。また、隣国のウズベキスタンとの国境にはかつてアラル海という湖が広がっていましたが、冷戦時代にソ連がアラル海に流れるアムダリア川の灌漑を行ったことにより、湖はかつての面積の 10 分 1 以下に縮小、そして湖は塩性化しました。これは「20 世紀最大の環境災害」だとも言われています。そして、カスピ海沿岸には海抜ゼロメートル地帯が広がっています。カザフスタンは旧ソ連を構成する国の一つであったという歴史的背景からか、文化面などでロシアと似た部分が多く残っています。また、国民の多くがイスラム教徒であり、その多くはスンニ派です。農業ではリンゴの栽培が盛んで、カザフスタンはリンゴの原産地であるとされています。人口は約 2000 万人、面積は約 270 万平方キロメートルで世界第 9 位、内陸国では最大の面積を誇ります。最大都市はアルマトイで、首都は 1997 年までアルマトイでしたが、1997 年に首都が移転され、現在はアスタナとなっています。国の南東部には中央アジアで最大の面積をほこるバルハシ湖があります。この湖は東側が塩水、西側は淡水で構成されているという世界的にも珍しい構造をしています。

日本とカザフスタンは経済や政治などで協力関係にあり、日本はカザフスタンからチタンなどの天然資源を多く輸入している。逆に日本は主に自動車を輸出しており、投資も積極的に行っている。

フランス 文責：高 隼人

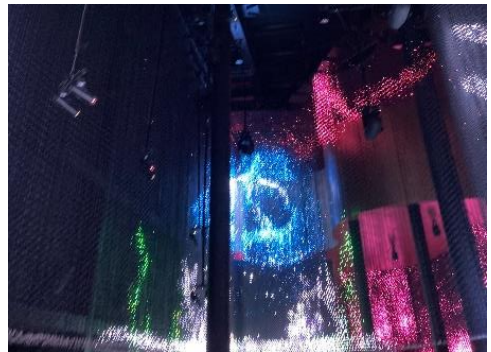
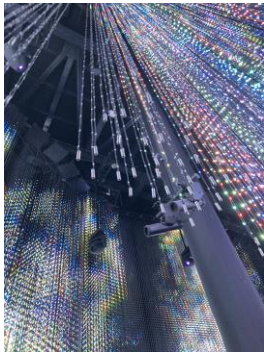
今回の巡検ではフランス館を見学させてもらった。館長さん本当にありがとうございます。僕たちのためにとても人気のガンダム館、NTT 館、フランス館というとても人気



【写真：フランス館のアート作品】

非常に興味深かった。後半はフランスに関係のある？芸術作品が展示されていた（もちろん現代アートも）。最初にこれらのアート作品たちについて紹介しよう。まず印象に残っているのが「手」シリーズこれらの手（あと3つある）はフランスのロダン美術館から来ている。これらの手は彫刻作品であり、感情をイメージして作られている。彫刻とは思えない作品なので見てほしい。とても考えさせられる作品だ。これらの作品たちは、かくブースの入り口の横に展示されている。

次に入り口から近くにある作品。大量のLEDライトを天井から吊るし、その色を変えろという日本のチームラボの作品のようなものが入り口付近と出口付近にある。規模

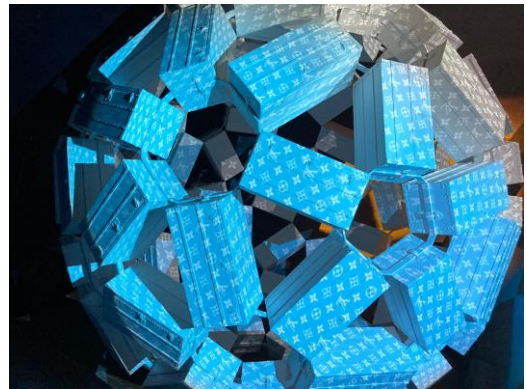
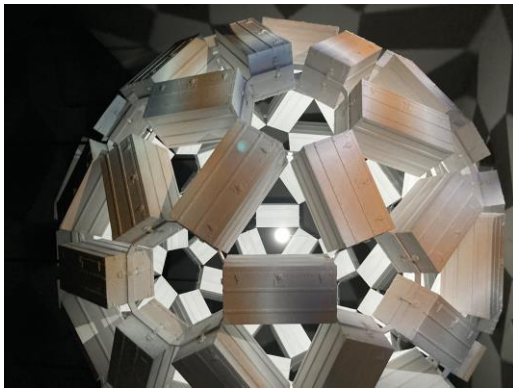


【写真：LEDライトによる作品】

としては出口付近に存在するものの方が大きい。とても幻想的でありこのライトを使い映像のようなものをうつしている場所もあった。非常に美しく華やかだった。

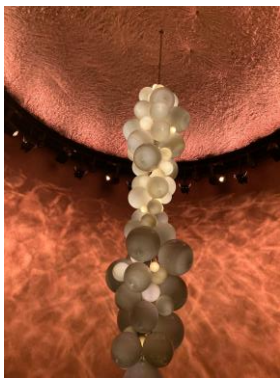
芸術作品をもっと紹介したいが残念ながら数が多いので今回はこれだけになった。他にもっと面白い作品があるので気になる人は自分の目で確かめてほしい。

次に展示物の内容について、今回のフランス館は大まかに3つほどに分かれている。最初はルイ・ヴィトンのかばんでできたアート作品がある。この作品はこのかばんでできた球体が回りつつ色が変わろというアート作品である。この作品は個人的にはこの球



【写真：ルイヴィトンのかばんで作られた球体(2枚)】

体の影が変わっていくのを見るものだと予想するが、他の意図があるのかもしれない。非常に考えさせられる球体だ。このエリアは主にアートに関することなので今回は割愛する。

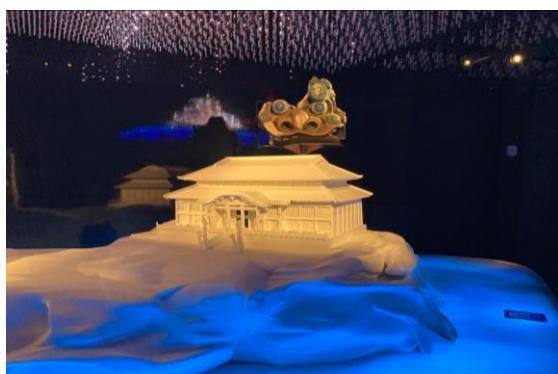


【写真：フランスの産業を表現した展示】

次にあるのはブドウを模したアートと大量の服である。おそらくこのエリアはフランスの工業などを表しているのだと思う。表し方が芸術的でわかりにくいですが、あえてそうすることでフランスの工業などをアピールしているのだと考えられる。もしかするとフランスは強調するためにわかりづらくしているのかもしれない。

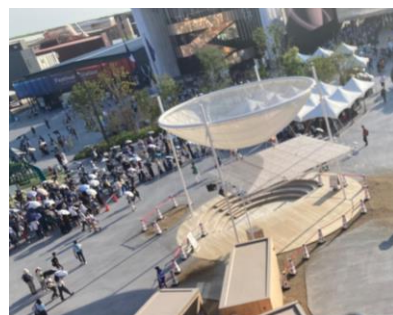
最後のエリアには芸術作品に関するところで紹介したアート作品と下には、日本の有

名な観光地とフランスの観光地の模型を綱でつないだりしているアート作品がある。これらの作品は厳島神社とモン・サン・ミシエルなどのように関連しているものなどを比較？している。上のアート作品の明かりによってこの作品の色も変化する為いろんな色の姿を楽しむことができる。おそらくこの作品の目的は、フランスと日本のとても有名な観光地の宣伝が目的だと考えられる。また、綱を結んでいることから、フランスと日本の関係がよくなることを願っているのかもしれない。



【写真：日本の観光地とフランスの観光地を繋いだ作品】

今回のフランス館は恐ろしく人気である。万博をでる直前大屋根リングを一蹴したのだがその際フランス館を見た。その時の様子がこれだ。見ての通り凄まじい行列だ。何時間待ちかはわからなかったがすごい数の人が並んでいた。今回フランス館に入れてくださり本当にありがとうございました。この行列を見ると本当にフランス館が人気な館かわかる。



【写真：大人気のフランス館】

パキスタン 文責：上野 開都

パキスタンは北にヒマラヤ山脈があり、アラビア海に面した国で、思わず息を呑むような多様性と印象的な対比に満ちている。国土はおよそ 90 万平方キロメートルもあり、雪をかぶったヒマラヤ山脈や広大な砂漠、豊かなマングローブ林など自然がたくさんある。そんなパキスタンで有名なのがピンク岩塩である。ピンク岩塩は標高の高いヒマラヤ山脈の中にたくさんあり、日本が最もピンク岩塩を輸入しているのだ。

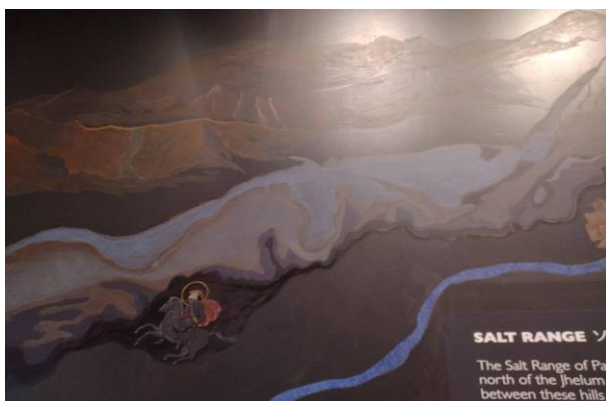
ピンク岩塩は実は酸化鉄が含まれており、酸化鉄があることでピンク色に見える。パキスタンに岩塩が見つかったのはなんと紀元前 336 年—323 年でその時、アレクサンドロス大王がヒュダスペス河畔の戦いでポロス王と戦っていた。長期の遠征で疲れ果て

ていた軍隊の馬達はケウラのソルトレンジで塩辛い大地を舐めて元気を取り戻した。このことから兵士たちはこの地に塩が眠っていることを発見したのである。

万博でパキスタンの展示場所に行くには「コモンズ D」という場所に行けば良い。パキスタンの展示場所に入ってみると壁にピンク岩塩、床にもピンク岩塩とパキスタンではたくさん取ることができることがわかった。また、説明書きもあったがとてもわかりやすく、まるでパキスタンを観光したと思えた。他にもコモンズ D には 30 カ国以上の展示物を見学することができる。万博にも関わらず人が少ないため、まさに穴場と言えるだろう。

スペイン 文責：岡崎 里杜

スペインは、ヨーロッパ西部に位置する国で、日本とも関わりが深い国だ。今回の万博のテーマは「結び合わせる流れ」で、主にスペインと日本の結びつきについて展示があった。スペインと日本の交流の発端となった出来事が、江戸時代前期の 1609 年に起こった。スペインの船「サン・フランシスコ号」が、千葉県東部の御宿町沖で難破した事故だ。この船は、黒潮の流れに沿っている交易路を航行中だった。そんな時、救世主となったのが村の住民たちや特に伝統的な漁師である海女たちだった。そのおかげで、



【写真：パキスタンの展示(3枚)】

乗客と乗組員の大半が救助された。この出来事の後、感謝の意を表して、スペイン国王フェリペ3世は、徳川家康に数多くの贈り物を届けた。具体的には、宝飾品や宗教関係のものだ。このころスペインは、アジアでの影響力を強めるため、日本との友好関係を築こうとしていた。しかし、日本は、スペインがキリスト教の布教をすることを恐れていたため、この後関係は悪くなっていった。

1613年には、大名伊達政宗が家臣の支倉常長率いる外交使節団をメキシコ・スペイン・イタリアに派遣した。この使節団は、慶長遣欧使節団として知られ、日本とヨーロッパの最初の外交関係を築いた。現在も、スペインには700人近い人が「日本」を意味するスペイン語「ハボン」の姓を名乗っているほど、当時の結びつきは強固だったと考えられる。しかし、前述したとおり、日本とスペインの関係は悪化していく。まず、スペインはポルトガルに並んでキリスト教の布教に力を入れており、それを脅威としてとらえていた日本と対立した。また、布教は植民地になる前段階ととらえる幕府からして、外国勢力の強まりは、支配に繋がりがかねないと考えた。そのため、1624年に幕府はスペイン船の来航を禁止した。これにより、日本とスペインの外交は完全に断絶された。ヨーロッパ西部にある日本から遠く離れたスペイン。それでも、強固な結びつきは今も残っている。

バングラデシュ 文責：釘宮 諒

バングラデシュは南アジアに位置し、日本の約4割の国土に約1億7000万人が暮らす国であり国土の大部分がデルタ地帯で、サイクロンや洪水などの自然災害の被害を受けやすい地域である。人口の約3割が貧困層であり、特に貧困地域では食料不足による子どもの栄養不良が深刻な課題となっている。そんなバングラデシュは万博では「いのちをつなぐ：伝統とイノベーションが共和する国」をテーマとしてバングラデシュが誇る伝統と未来社会へのビジョンをつなぐものとなっている。

バングラデシュのパビリオンの館内に入ってまず私が最初に目を惹かれたのが幾重にも連なり、緩やかな曲線が描かれた木のフレームであった。これは世界各国が手を合わせて協調している様子を表しているらしい。フレームの内側では農業や暮らしなど、同国の日常をミニチュアで再現したものを展示して、フレームの外側ではジュートと呼ばれる麻を用いたバッグや繊細な刺繍が施された織物「ノクシカタ」などの工芸品が展示されていた。また、同国の民衆による抵抗運動の歴史も展示されていた。同国の母語であるベンガル語の権利を守るための闘争やパキスタンからの独立闘争、そして私がバングラデシュのパビリオンの中で一番興味を惹かれた、2024年夏のハシナ首相を退陣に追い込んだ反政府デモが紹介されていた。バングラデシュは、2024年に、15年以上に渡って政権を掌握してきたハシナ政権を学生が中心となった反政府勢力が打



【写真：パビリオンの外観の様子】

に目を向けていたりしていたのだが、今回のバングラデシュのパビリオンを通して国ごとにそれぞれの事情を抱えていて、それは知ろうとしないと見えてこないものなのだと知った。

ベルギー 文責：鈴木 涼太

ベルギー館の外見は、氷のような直線的な構造と雲のように浮かぶ屋上の丸みが融合したデザインであった。これは水の循環をイメージしている。このように、ベルギーパビリオンのテーマは主に「人間の再生」と「水」である。またベルギー館のサブテーマは「いのちを救う」であり、展示の中心は「人間の再生」であった。これは人間の生活の質を回復・向上・延伸させる革新的技術を示す概念であり、病気の予防、身体の修復、寿命の延長などを含んでいる。実際の展示にもこのテーマが強く現れており、ベルギーのワクチン製造業に関する功績などが強く押し出されていた。館内展示では、ライフサイエンスやヘルスケア分野における最新の技術について AI やロボットを活用した医療支援についてなども学ぶことができた。



【写真：実際のベルギー館の展示】

倒し、ノーベル賞受賞者のムハマド・ユヌス氏を首席顧問とする新政権が発足したというものだった。パビリオンでは、この革命時のものと思われる若者たちのイラスト作品が多く飾られてあった。他国でこんなにも大きな出来事があり、そしてそれが最近起こった出来事であったことに、私は驚きを隠せなかった。私これまでは大国であつたり、日本と身近な関係にある国

ベルギーはバイオテクノロジー、製薬、医療研究の分野で世界を牽引する国であることがその専門性ととも展示にブランディングが反映されていた。また、「金継ぎ」という概念もベルギーパビリオンを語るにおいて欠かせない。金継ぎとは一般的に割れたり欠けたりした陶磁器を漆と金粉などを使って修復する日本の伝統的な技術である。

ベルギーパビリオンでは、「ヒューマン・リジェネレーション（人間の再生）」というコンセプトを基盤にクリエイティブな表現がこの「金継ぎ」と結びついていた。どういうことかと言うと、まずここで言う「金継ぎ」とは、不完全さを受け入れ、物を大切にするという哲学を体現している。これは困難に立ち向かう強さや変化を受け入れる心、そして不完全で一方的なものに価値を見だし、称える精神を表している。ここ考えはしばしば人生の試練の比喻として捉えられ、傷跡を隠すのではなく、認めて価値を見出すということを促しているということだ。

ベルギーパビリオンでは、金継ぎの概念を健康というテーマと融合させることにより、癒しや回復に対する深い理解を提供している。健康の観点から見ると金継ぎは「治癒のプロセス」を象徴する例え話のようなものとなり、「レジリエンス（回復力）」だけでなく、病気やケガの後に修復されることで生まれる美しさや価値も際立たせているのである。このように、金継ぎは人間の複雑な日常を大切にしながら、癒しや健康に向き合うためのモデルとなっていた。このグラフィックの原理は、パビリオンのビジュアル制作の指針となっており、多くの場所にモチーフとして取り入れられ散りばめられ、全体的な視覚感の統一を生み出している。

また、建物のコンセプトとしての「水」を表現するために、固体・液体・気体の三態を建物の各層で表現する設計がなされていた。これはベルギーの国土を形成する3地域（フランドレン、ワロン、ブリュッセル首都圏）を象徴する意図も含まれていた。

このように、ベルギー館は美しさと技術と哲学が融合した展示空間として、この大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を具現化しているのである。幻想的な雰囲気が実際に感じられ、科学と人間の未来を実際に体感できる場として非常に魅力的であった。

チリ 文責：遠藤 壮一郎

①チリ共和国について—チリは南米の西側の海、太平洋とアンデス山脈の間に位置する国である。細長い地域であることが特徴で、長さ 4300km と世界で最も長く、幅平均 180km と細長い国でもある。モアイ像で有名なイースター島や世界で最も乾燥した砂漠であり、何世紀にもわたって降雨を記録していない地域も含まれているアタカマ砂漠がある。澄んだ空と光害の少なさのおかげで、様々な天文台がある。天文台の中にはアルマ望遠鏡や VLT といった望遠鏡が設置されているところもある。

チリと日本は128年にわたる強固な外交関係を通じて、様々な分野で結びつきを強めてきたが、中でも科学技術、自然災害防止における協力が際立っている。経済的には、日本はチリにとって第4の貿易相手国であり、サケ、ウニ、ブドウ、高級ワイン、特にカベルネ、ソーヴィヨンなどの重要な輸出先である。加えてチリのピスコはその味と文化的な関連性で高い評価を得ている。

②パビリオンについてーチリのパビリオンには3つのセールスポイントがある。1つ目は、マクンである。マクンとは、チリの11の先住民族の1つである最も数が多いマプーチェの女性たちによって織られているマントである。このマクンは様々な色で織られ、織った人たちの豊かな織物の伝統と先祖伝来の世界観を表現している。このマクンは天井にも室内の仕切りにも張られて、見物人を楽しませていた。2つ目は没入型のオーディオビジュアル体験でパビリオンの4つの壁のうち、3つの壁面が40メートルにわたって、広がり、来場者をチリの風景や文化にいざなっていた。3つ目はダイナミック・プログラミングでテーマが週ごとに変わる。そのテーマに合わせてパビリオン内の展示、講演などのイベントも実施している。



【写真：公式キャラクター「チリちゃん」】

ペルー・マチュピチュ 文責：京免 怜澄

カルパのデザインの波はアンデス文化の真髄である「強さ」や「力」の概念と強く結びついており、常に動くエネルギーを表しています。色は強さのさまざまな様相を反映しています。このポンチョには、回復力、エネルギー、祖先との深いつながりの象徴が込められています。ワイラ・トゥタは波の形をしたひもは夜の山々を渡る風のリズム的な動きをイメージしており、自然の中の風のダンスを表現しています。主なフルーツはマンゴーやライムです。マチュピチュの作品では、飾り壁やシルバーチェスト、アルムスボウル、シルバーホースなどがあります。

オーストラリア 文責：荒巻 裕司

オーストラリア館に入るとまず、ユーカリの森のようなところがあります。ここには木が大量に植えられていて、そこには、コアラが木に登っている映像が映っていました。次のエリアにいくと大勢の人が立ち止まっているところがあり、そこには巨大なスクリーンがあります。スクリーンは前だけでなく横や、天井にも映っていて、迫力が感じら

れます。スクリーンには海が映し出されていて、海に潜っていく映像が見られました。このパビリオンでみられる展示物は少なめでしたが、映像のクオリティがとても高かったです。そして、外に出るとライブをしていました。オーストラリアの自然をこのパビリオンで学ぶことができました。

トルクメニスタン 文責：切手 悠介

トルクメニスタンは独裁国として有名である。そのため、自由に入国できない国となっているトルクメニスタンについて存分に知ることができるトルクメニスタンパビリオンは、大変人気である。

トルクメニスタンパビリオンに入ると、目の前にセルダル・ベルディムハメドフ大統領の写真が現れる。セルダル・ベルディムハメドフ大統領は、ナショナルデーに合わせて万博に訪れた際に、天皇陛下や石破首相などと会談するなどと、日本との交流を徐々に深めている。トルクメニスタンは、日本を技術大国として高く評価していることから、親日的傾向にあるとされている。また、日本への天然ガスなどの資源の輸出を通して、外交関係も築いている。

トルクメニスタンパビリオンの1階にはシアタールームがあり、トルクメニスタンを紹介する映像を見ることができる。天井には多くの鏡があり、とても綺麗である。親切に映像が始まるまでのカウントをしてくれるので、突然始まって焦るということはない。映像を見る際は座って見るように指示されるので、見やすくなっている。

映像では英語の音声を流しながら日本語の字幕が表示されている。トルクメン民族の国民的守護者である英雄アルカダグ（守護者という意味のトルクメン語）など、トルクメニスタンが誇る英知と知性の満ちた多くの人物の紹介とともに金色を多く取り入れ

た綺麗な映像が素早く切り替わっている。また、トルクメニスタンで大切にされている国犬アラバイとトルクメン・アハルテケ馬の金の像も映像に取り入れられていて、大迫力である。最後はトルクメニスタンの首都アルカダグにくるべきだと言い切って映像が終わる。

2階には展示ルームがあり、トルクメニスタンの産業や名産が紹介されている。トルクメ



【写真：1階のシアタールーム】

ニスタンのカスピ海フェリーとトルクメニスタンの鉄道車両が展示されている。

トルクメニスタンの伝統民族衣装であるクルテの展示もある。これはお土産として買うことができる。



【写真：民族衣装】

トルクメニスタンは独裁国ではあるが、入国には長い手順を追わなくてはならないため、治安は守られている。安全な国なので、人気が高まってきている。



【写真：鉄道車両とフェリーの展示】

トルクメニスタンは絹織物が有名で、絹織物で作られたカバンなどが展示されている。絹織物はトルクメニスタンの宝物とされている。



【写真：絹織物】

マルタ 文責：水谷 颯

①**基本情報**—マルタ共和国 (Republic of Malta) は、地中海に位置する小さな島国である。首都：バレッタ (Valletta)。面積：約 316 ㎢(東京 23 区の半分ほど)。人口：約 52 万人(2025 年推定、板橋区・江東区・杉並区などとほぼ同じ)。公用語：マルタ語、英語。通貨：ユーロ (EUR, €)。位置：地中海の中央部、イタリアのシチリア島の南約 90km に位置。構成：マルタ島 (最大の島)、ゴゾ島、コミノ島。気候：地中海性気候。

②**歴史 (簡略)**—古代：フェニキア人、カルタゴ人、ローマ人の支配を受ける。中世：ビザンツ帝国、アラブ人、ノルマン人に支配される。1530 年：聖ヨハネ騎士団により統治。1798 年：ナポレオン率いるフランス軍が占領。1800 年：イギリスが支配。1964 年：イギリスから独立。1974 年：共和国宣言。2004 年：EU 加盟。2007 年：シェンゲン協定加盟。

③**文化**—宗教：ローマ・カトリック (国民の 90%以上)。文化：ヨーロッパ・アラブ・アフリカ・地中海の影響が混ざり合った独特な文化。食：ウサギ肉、タコなどを食べる。

④**地質**—主に堆積岩 (石灰岩) で構成された島々である。アフリカプレートとユーラシアプレートの境界域に位置し、地殻のゆっくりとした変動によって隆起している。

⑤産業－農業、漁業を行っているが、観光業などが GDP の 9 割以上を占める。農作物：オリーブ、ジャガイモ、トマト、ブドウなど。漁業：クロマグロ（世界有数、日本の輸入量ランキング 1 位）シーバス、タイなど。

⑥マルタパビリオンの特徴－「時のゲートウェイ」と没入体験：外観は全面モニターを使った「時のゲートウェイ」と呼ばれる造りで、古代遺跡や海の洞窟の映像が流れる。



【写真：マルタ館の外観】



【写真：マルタ館に展示されている甲冑】

甲冑の展示：注目の展示物は、幕末に福澤諭吉が随行した「文久遣欧使節団」がマルタに贈った甲冑である。約 160 年ぶりに日本へ帰還し京都で修復された貴重な品で、日本とマルタの歴史的な結びつきの象徴である。

僕は合宿の直後に実際にマルタに行ったので、マルタの世界遺産と有名観光地について紹介する。

⑦世界遺産－マルタには世界遺産が 3 つあるが、そのうち 2 つに行ってきた。

〈バレッタ市街〉

登録年：1980 年。ジャンル：文化遺産。特徴：マルタ騎士団（聖ヨハネ騎士団）によって 1566 年に建設された計画都市。要塞：教会、宮殿、庭園などがコンパクトに集中。旧市街全体がユネスコ世界遺産に指定されている。

〈マルタの巨石神殿群（Megalithic Temples of Malta）〉

登録年：1980 年（1992 年拡張）。ジャンル：文化遺産。構成資産（7 つの神殿）：マルタ島～ハジャーイム神殿（Hagar Qim）、イムナイドラ神殿（Mnajdra）、タルシーン神殿（Tarxien）、タ・ハジラ神殿（Ta' Hagarat）、スホルバ神殿



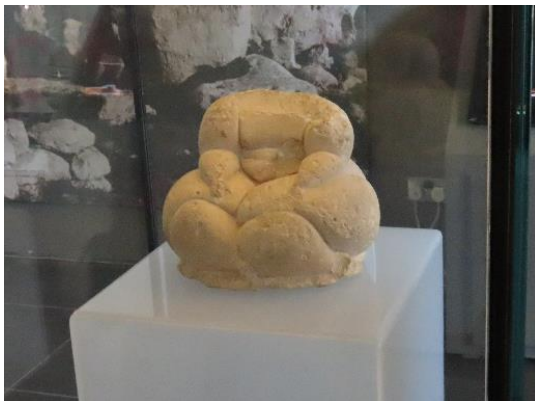
【写真：バレッタの入り口】

(Skorba)。ゴゾ島～ジュガンティーヤ神殿 (Ġgantija, 世界最古級)。特徴：紀元前 3600～2500 年の先史時代の宗教施設。巨大な石（最大 20 トン以上）を積み上げた世界最古の石造建築物群。

石を積み上げて上の写真のように楕円が 2 つつながった形を作る。赤い線は 1 年間で太陽光の角度が変わる様子である。昔の人々は太陽光が当たった場所を記録し、カレンダーとして使っていたようだ。



【写真：ハジャーイム神殿の展示】



【写真：神殿で祀られていた「The Fat Lady」】

「The Fat Lady (太った女性像)」とは、マルタの巨石神殿遺跡から出土した、ふくよかな女性像・彫刻群の総称。丸みを帯びた体形（特に腹部・臀部・胸が強調されている）で、座っていたり、寝そべっていたり、横たわる姿勢が一般的である。頭部は石や木、体は石灰岩で作ったとされているため、頭部がない、または非常に簡素に表現されているものが多い。この女性像は、大阪・関西万博でも展示されている。

⑧有名観光地ーブルーラグーン：コミノ島に位置し、海底が白い石灰質の砂や岩でできていることや、水深が浅いため、太陽の光が反射しやすいといった条件がそろい、海がとてもきれいに見える場所である。船が浮いているようにも見える。石灰岩の島が地質活動で形成され、長い年月をかけて波や風、雨で削られたのち、自然の入り江(ラグーン)ができた。白砂+浅瀬+透明な水で「青く」見えるようになっている。ブルーグロット：長年にわたり、波の力が崖の下部を削っていき、海食洞と呼ばれる洞窟ができた。この自然の洞窟群の中で、特に大きく美しいものが「ブルーグロット」と呼ばれている。太陽光が海中に差し込み、洞窟の壁や海底の白い岩に反射し、その光が再び水中に反射して幻想的な青



【写真：「The Fat Lady」に関する展示】

い光を放つ。洞窟内の水面や壁がエメラルドブルー～コバルトブルーに輝いて見えるのが特徴である。



【写真：ブルーグロット(左)／ブルーラグーン(右)】

ドイツ 文責：北村 優歩

ドイツパビリオンでは循環経済をテーマとしており、サーキュラーという 10～20cm 程度のキャラクターをセンサーに当てて循環経済についての説明を聞く仕様になっていて、ドイツパビリオンの建物も実際に再利用されている木材が使われており、図などもあってとてもわかりやすい説明であった。名前の「わ！ドイツ」のわ！には循環の環と調和の和と感嘆のわ！という意味がある。

ドイツパビリオンのレストラン Oishii! Germany は関西産の食材を積極的に使用したドイツ料理などが楽しめ、食文化を通して持続可能な食の未来を感じてもらう設計になっている。そして、残念ながら IC カードが使えずお土産が買えなかったお土産屋さんではサーキュラーの関連グッズやビールなどの食関連商品などが置いてあったそうだ。

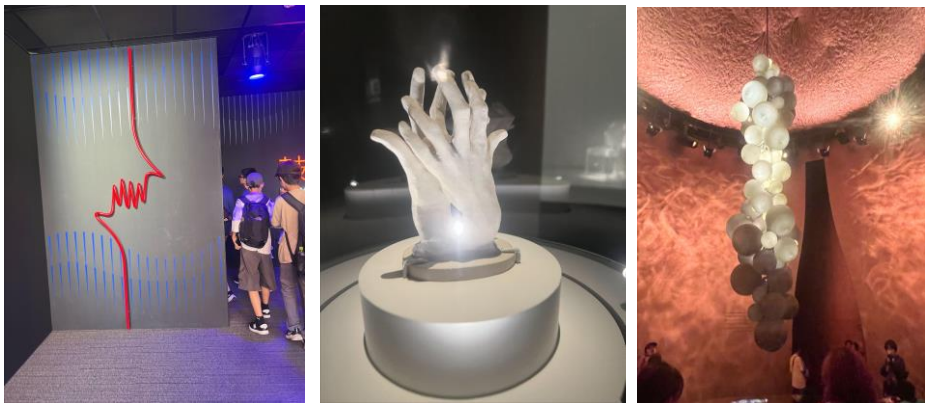


【写真：サーキュラーとセンサー(左)／ドイツパビリオン内の設置物(右)】

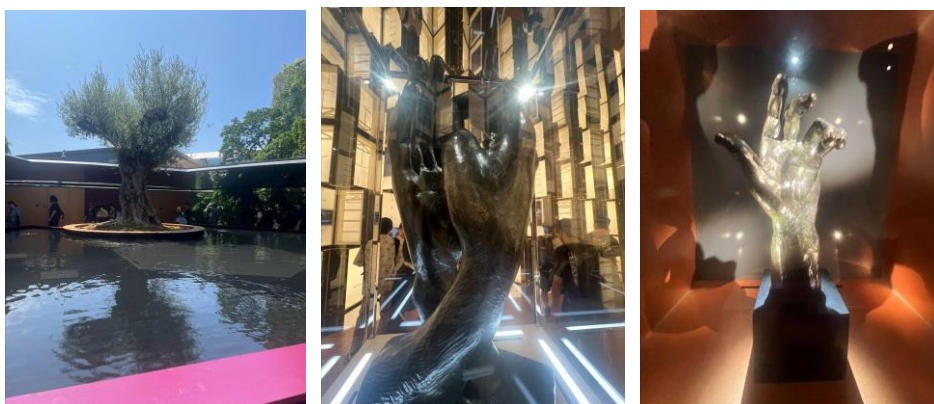
フランス 文責：渡部 翼

フランスは首都パリとする国であり、人口は約 6,837 万人で面積は 54 万 9,1341 km² である。また、主要言語はフランス語で主要宗教にはカトリックやイスラム教などがある。

地理部では、フランスのパビリオンに行った。パビリオンのテーマは愛の讃歌。お互いの小指が見えない魔法の糸で結ばれているという「赤い糸の伝説」。この赤い糸を通じて、「自分への愛」、「他者への愛」、「自然への愛」といった様々な「愛」に導かれる新しい未来のビジョンを提案する。パビリオンのエントランスは、神秘的な雰囲気かつ開放的な劇場がデザインされ、パビリオン建屋の外側は、劇場のカーテンのようなベールで覆われている。展示の最後に庭園が姿を現すと、公式のブログに書いてあった。実際に行ってみると派手でさが控えめで、落ち着いていた印象だった。展示物も豪華絢爛な装飾が施されたものはほとんどなく、神秘的な雰囲気を醸し出しているものが多かった。博物館寄りの雰囲気だった。展示物の中で特に印象に残っているのがルイ・ヴィトンのスーツケースコーナーだ。それが何かというと、ロダンのカテドラルを積み上げられた大量のルイ・ヴィトンのスーツケースが囲んでいるものだ。行った時は、スーツケースの量と金額に驚かされていた。しかし、ただただ見せびらかすためではなくちゃんとした理由があり、自社の偽物の粗悪品に悩まされていたルイ・ヴィトンは新たな発想を得るべく 1867 年にパリで開かれた万博に行き、そこで日本の文化に出会い、そこから日本の伝統的模様の一つの市松模様から着想を得て、ルイ・ヴィトンの人気デザインであるダミエが生まれたそう。これは真似しにくいデザインになっている。そこからヴィトンと日本はお互いを合い、讃え合い特別な関係を築いたそう。このことはメゾンと日本の深い関係の最初の証と言えるのだそう。縁があるからわざわざ展示されていて納得した。このような美を感じさせてくれる展示物や愛を感じさせてくれる展示物が多いため、派手なパビリオンを見たあとの休憩としてちょうどいいとだと思った。



【写真：フランスパビリオンの展示物(3枚)】



【写真：フランスパビリオンの展示物(3枚)】



【写真：様々な国の展示がある「コモンズ」】

パキスタン 文責：松崎 悠人

ぼくはそもそもパキスタンが塩の名産地であることをまったく知らなかった。そしてさらに重要なことは、それを知ろうとすらしていなかったのである。パキスタンといえば、インド独立の際にイスラム教徒たちが分離独立し、その後現代に至るまでインドと紛争を起こしている国だ。その挙句にインドと共に核武装までしてしまい、複数国



【写真：ピンクソルト】

が共同利用する大阪・関西万博の共同館「コモンズ D」の中で、とりわけ人気を集めているのがパキスタンのブースだ。

ブース内は同国北部のケウラ塩鉱山で産出されたピンク色の岩塩「ピンクソルト」約 12 トンで埋め尽くされている。岩塩の柱が何本も立ち並び、床にも一面に敷き詰められた空間は幻想的だ。ピンクソルトが赤みがかっているのは酸化鉄などを含んでいるためで、酸化鉄の量が多いほど濃い色になるという。

世界で一番核弾頭ミサイルが飛び交いそうな地域の一つになっているのである。ぼくはこのような新聞やニュースで得られるパキスタン像しか知らなかったし、それ以上知ろうとすらしていなかった。しかし、パキスタンの展示のキャッチーさは、パキスタンの等身大の国家像をもっと知りたいと思わせてくれる。きっとこれが、万博を開催する大きな世界的意義なのだろう。

2. 大阪城

文責：北村 優歩

大阪城は本丸の周りに水堀が施されている。この水堀は二重になっていてそれぞれ内堀、外堀という。内堀は幅が 40～75m、水面からの高さが 24m、石垣自体の高さが 25～30m となっていて日本一の高さである高石垣もあり、一度落ちると登るのが非常に困難になっており、実際現代でも数件の落水事故があり、死亡している人もいる。これは昔の大阪城にも言えるため（現代の大阪城は内部や材料以外の建物がある場所などは一代目の大阪城を限りなく再現している）、かなり敵の足止めになっていたと考えられる。そして外堀は幅が 75～100m、水面からの高さが 20～30m、石垣自体の高さは 30m ほどとなっており内堀同様登るのが困難なのでこちらもかなり敵の足止めになっていたと思われる。

大阪城は石垣の石がかなり大きく小田原城の最大の石の重さは 30t ほどだが、大阪城の最大の石の重さは約 3 倍の 108t ほどあり大阪城の石垣の石は場所にもよるが、大阪城の石垣の石はかなり大きく防御力なども高いと思われる。



【写真：大阪城の水堀の様子(左)／大阪城の石垣の様子】

3. 大阪城の展示物

文責：荒巻 裕司

大阪城の中は資料館のようになっていて、1 階から 8 階まであります。大阪城はエレベーターで上がってから上から見ていく方法と階段で上って見ていく方法の 2 通りの方法があります。

①2 階の展示物

2 階には大阪城の解説や展示などがあります。天守閣にあるしゃちほこや、虎のレプリカが展示されていました。また、兜や着物を試着し、写真撮影をするスペースもありました。

②3 階・4 階の展示物

3 階は資料を展示するエリアでした。豊臣秀吉や徳川家康の時代の大阪城の模型がありました。資料を販売しているところもありました。4 階も資料を展示していました。

③5 階の展示物

エレベーターで上がってきた人はここからは階段で上ります。この階には「大坂の陣」の模型がありました。戦っている人たちの情報も展示されていました。

④6 階・7 階の展示物

6 階は回廊になっていて、展示物はありません。一般の人は5 階の次は階段で7 階に行きます。7 階には豊臣秀吉の年表と家系図があります。

⑤8 階の展示物

8 階は展望台になっています。しゃちほこも見えます。また、お金を使って一定時間大阪城のまわりを見ることができる望遠鏡もありました。



【写真：大阪城天守閣】



【写真：2 階にあるしゃちほこと虎】



【写真：大坂夏の陣の模型】



【写真：大阪城の全景】



【写真：8 階の展望台から見たしゃちほこ】

4. 通天閣

文責：水谷 颯

通天閣は、大阪市浪速区に位置する展望塔であり、東京の東京タワーに対する大阪の象徴とも言える存在である。通天閣の歴史は、1912年にまでさかのぼる。当時、大阪は「大大阪」と呼ばれるほどの勢いをもち、工業・商業の中心地として急成長を遂げていた。新しい時代を象徴するモニュメントや、庶民の娯楽の中心地となる「新世界」一帯のランドマークとして、通天閣は誕生した。そのデザインは、西洋の文化に憧れを持っていた当時の日本人の感性を反映しており、下部がパリの凱旋門、上部がエッフェル塔を模したというユニークなものだった。高さは約75mで、当時は日本一の高さを誇る建造物であり、展望台からの眺望は多くの市民の憧れだった。初代通天閣のふもとには「ルナパーク」という遊園地が併設されており、ケーブルカーで塔と遊園地が結ばれていた。この一帯は当時の先端的なレジャースポットであり、通天閣はその中心として機能していた。映画館や演芸場、レストラン、ビアホールなどが軒を連ね、まさに「夢の世界」＝「新世界」として、人々に非日常の体験を提供していた。しかし1943年、管理会社の手違いによる火災で損傷し、その後、第二次世界大戦下の金属供出のために解体されてしまった。通天閣の鉄骨は戦争のための資材として使われ、象徴であった塔は姿を消すこととなった。

戦後、大阪の復興が進む中で、人々の間には「もう一度通天閣を建てたい」という願いが地元の商店街を中心に高まり、1956年に現在の2代目通天閣が完成した。設計を手掛けたのは、東京タワーや名古屋テレビ塔などを設計した「塔博士」と呼ばれる内藤多仲である。新しい通天閣は、旧塔を模しつつも近代的な構造を取り入れ、当時の建築技術の粋を集めて建てられた。高さは103m（塔本体87.5m、避雷針含む）と、初代よりも高くなり、再び大阪のシンボルとして市民に迎え入れられた。この新しい通天閣の展望台には、「ビリケンさん」と呼ばれる幸運の神様が鎮座している。ビリケンはアメリカ生まれのキャラクターで、1910年代に日本に輸入され、初代通天閣にも設置されていたものだった。ビリケンの足の裏をなでると願いが叶うという言い伝えがあり、誰もが一度は訪れるような存在になっている。このビリケンも通天閣の再建と共に復活し、今では塔の象徴の一つとして観光客に親しまれている。

通天閣の中でもう一つ忘れてはならないのが、外壁に掲げられた巨大なネオンサインである。1957年から長年にわたり、日立グループが広告を出し続けており、夜になると塔全体がカラフルな光に包まれる。このネオンは単なる広告ではなく、色で翌日の天気を表す機能も持っており（青＝晴れ、白＝曇り、赤＝雨など）、市民にとっては「明日の天気を教えてくれる塔」としても親しまれてきた。今ではこのネオンの光が、夜の大阪を象徴する景観の一部となっている。



【写真：新世界と通天閣】

また、通天閣が建つ「新世界」地区は、大阪庶民の娯楽と食文化が凝縮された場所で、串カツ、どて焼き、お好み焼きなどの B 級グルメの宝庫である。レトロな商店街、将棋クラブ、射的場などがひしめき合い、現代の商業施設とは一線を画す独自の魅力を放っている。

21 世紀に入り、外国人観光客の増加や、大阪のグルメ・カルチャーへの国際的な注目の高まりにより、再び多くの

観光客が通天閣を訪れるようになった。展望台からの眺望以外にも、屋外の特別展望エリア「天望パラダイス」では、風を感じながら大阪の街を見下ろすという新しい体験も提供している。

5. 心斎橋

文責：釘宮 諒

心斎橋は大阪市中心部に位置する繁華街で長堀通り周辺から道頓堀川までの南北約 580m の区間に位置し、高級百貨店や衣服、グルメ等の店が集まっている大阪随一のショッピングエリアである。心斎橋エリアのうち、大阪のメインストリート御堂筋より東側にある心斎橋筋には心斎橋筋商店街と呼ばれるアーケード街がある。そこでは雨の日でも買い物が楽しめるように設計されていて、天候に左右されずに遊び回れ、大阪らしい面白い店から海外ブランドのファッション店、服や靴、雑貨といった正統派の店まで色々なショップがあり大阪ミナミの名所のひとつとなっている。飲食店は全くと言っていいほどなく、先輩と心斎橋で昼食を摂ろうと繁華街をひたすら進んでいたらいつの間にか道頓堀に来てしまったほどだ。また今回の巡見では行けなかったが、西側には関西地方でもっとも若者が集まる街のひとつアメリカ村があり、御堂筋を挟んで特色の異なる東西のエリアに分けることができる。

利便性の面では、文句のつけようがなく、地下鉄御堂筋線の心斎橋駅を中心に、長堀鶴見緑地線や四つ橋線など複数の路線が利用できる。地下通路はとても涼しく昼食を済ませ集合場所に戻る際はこの地下通路を使って戻ってきた。重いリュックを抱えていたこともあり、背中が蒸れて繁華街では気分を害していたのだが、わずかながら涼を取れたことがどんなに嬉しかったことか。ちなみに昼はとんぺい焼き（おそらくそうだと思われるもの）を食べた。ヘラを使い鉄板の上で自分の手を動かして食べたのでとても満足感が得られた。話を戻すと心斎橋は、難波や梅田といった大阪の主要エリアへのアク

セスも抜群で、「迷ったらとりあえず心斎橋で集合」が成立してしまう。買い物をするにも、百貨店から個人経営の古着屋、流行最先端のブランド店まで幅広く、まるで財布が試されているかのようなエリアでもある。

治安に関しては、基本的には問題ないものの、夜になると少し雰囲気が変わる。外国人観光客や若者が多く集まり、にぎやかというよりも少し騒がしくなる。目を疑うような光景も見られるが、警察の巡回や交番も多いため、大きなトラブルに巻き込まれることは少ないらしい。私が行って見たところによると、人が群れるような場所をなかったとまでは言えないがそこまで見受けられなかった。そのため、西部に位置するアメリカ村に多いのではないかと思った。



【写真：とんぺい焼き(左)／心斎橋筋の様子(右)】

6. 道頓堀

文責：水谷 颯

道頓堀は、大阪市中央区に位置する繁華街であり、現在ではかに道楽やグリコ看板などの巨大な立体看板が立ち並ぶ観光名所として国内外に知られる場所である。

道頓堀の始まりは江戸時代初期、1612年にさかのぼる。当時、この地域はまだ湿地帯であり、交通や物流の便が非常に悪く、都市開発には向いていない土地であった。ここに目を付けたのが安井道頓という町人で、大阪の町の発展のために運河を掘削しようと考えた。彼は私財を投じて開削工事を始め、現在の道頓堀川の原型となる運河を建設した。この運河は、大阪湾から船で荷物を運ぶための水路であり、結果としてこの地域に物流と人の流れを生み出す重要なインフラとなった。しかし道頓自身はこの工事の完成を見ることなく、大坂冬の陣において戦死したとされている。工事はその後も続けられ1615年ごろに完成した。徳川幕府もこの事業を高く評価し、彼の功績を称えてこの地域を「道頓堀」と命名したと言われている。なお、「堀」は運河を意味する。

道頓堀川が開削されたことで、この道頓堀周辺は物流・商業の拠点として急速に発展

した。17 世紀中頃には、このエリアに芝居小屋が次々と建設され、道頓堀は商業地ではなく、娯楽と文化の発信地へと進化した。特に人形浄瑠璃や歌舞伎が盛んに上演され、道頓堀五座（中座・角座・浪花座・朝日座・弁天座）と呼ばれる劇場群が人々を集めた。これらの劇場は、大阪の芸能文化を支える中核であり、京都や江戸に並ぶ西日本最大級の演劇地帯となった。こうした

芝居文化の周囲には、自然と飲食店、茶屋、料亭、宿屋などが生まれ、歓楽街としての性格が強まった。芝居を見た後に食事を楽しみ、遊び、泊まるという一連の流れがこの地に定着したことにより、道頓堀は「遊興の町」として全国に名を馳せるようになった。これが後に「食い倒れの街・大阪」というイメージの原点ともなった。

明治時代に入り、近代化の波が大阪にも押し寄せると、道頓堀もその影響を受け、ガス灯や洋風の建築、カフェなどが導入された。芝居小屋も大衆向けの劇場や映画館へと形を変え、道頓堀はエンターテインメントの中心地として再び脚光を浴びた。さらに大正から昭和初期にかけては、ネオンサインが導入され、現在のような煌びやかな街並みの原型が出来上がった。この時期には、名物のグリコの看板が登場し、夜の道頓堀川に映るその光景は「大阪の顔」とも言えるものとなった。しかし、第二次世界大戦によって大阪の街は空襲により大きな被害を受け、道頓堀も例外ではなく、劇場の多くが焼失し、一時は活気を失った。それでも戦後は驚異的なスピードで復興を遂げ、高度経済成



【写真：かに道楽】



【写真：グリコ看板】

長期には再び繁華街としての地位を確立した。1950 年代には「くいだおれ太郎」という人形が登場し、観光客に愛された。

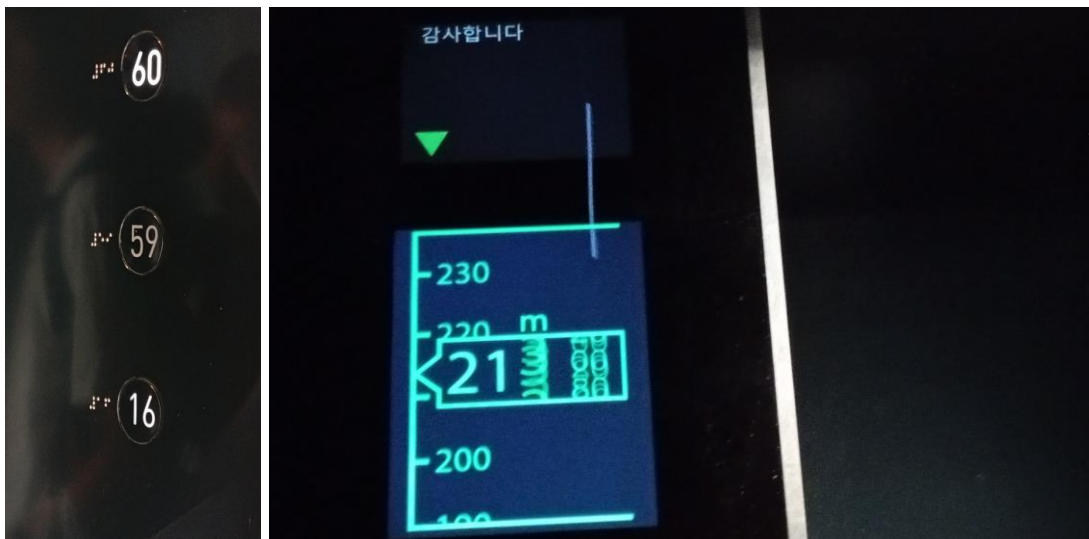
1970-80 年代にかけて、テレビ文化の浸透や消費の拡大に伴い、道頓堀は「食い倒れの街」「笑いの街」として全国にその名を広め、多くの芸人やタレントが大阪での成功を道頓堀に例え、「道頓堀に自分の顔の看板を出す」ことが夢とまで言わ

れるようになった。21 世紀に入ると、道頓堀は再び姿を変えた。特に 2000 年代以降、訪日外国人観光客の増加により、道頓堀はインバウンド需要の最前線となった。たこ焼きやお好み焼き、串カツなどのいわゆる「粉もん」グルメが注目され、観光客の多くがこの地を訪れるようになった。また、道頓堀川沿いには「とんぼりリバーウォーク」と呼ばれる遊歩道が整備されたり、新名所として串かつだるまビルの屋上に「だるま大臣」が設置され回転したりしている。

7. あべのハルカス

文責：切手 悠介・京免 怜澄

あべのハルカスは大阪府阿倍野市に建てられた高層ビルで、近鉄の駅なので、近鉄が経営している。元首相の安倍晋三さんとは全く関係ない。地下 1 階または 2 階からエレベーターに乗り 16 階まで行くことができる。エレベーターからは外の景色を眺めることができる。16 階は空中庭園と展望台のチケット売り場になっていて、そこそこ高い位置にあるため、天王寺近辺はある程度眺めることができる。チケットは有料で、大人 2000 円、中高生 1200 円、小学生 700 円、幼児 500 円、4 歳未満 0 円となっている。16 階から展望台までは天空回廊をつなぐ専用のエレベーターに乗って行くことができる。エレベーターは 16 階、59 階、60 階のみ停車可能である。



【写真：エレベーター内の表示（2 枚）】

エレベーター前側には地上何 m の位置にいるのかが 10cm ごとにわかる表示がある。また、乗っている途中でイルミネーションと音楽を楽しむことができる。



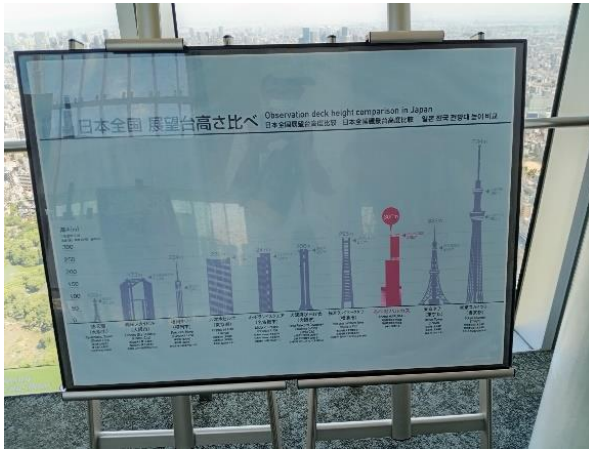
【写真：エレベーターの内部(2枚)】

59 階、60 階まで行くとまた違うイルミネーションになっている。60 階までは約 50 秒かけて行くことができる。

あべのハルカスの展望台は 60 階、お土産屋は 59 階、広場は 58 階にあり、それぞれの場所から大阪を一望できる。あべのハルカスの展望台から見える景色は大きく分けて四種類あり、北、西、南、東がある。北からは大阪梅田の高層ビル群や大阪城、四天王寺、谷町の高層ビル群などを、西からは万博の大屋根リングや大阪ベイタワー、京セラドーム大阪などを、南からは住吉や天下茶屋の街並みや路面電車を、東からは複数の方向に伸びていく線路とそこを走る電車を、まるでジオラマのように見ることができる。60 階には記念撮影スポットが複数あるので、そこで記念撮影をすることができる。また、有料固定式双眼鏡もあり、これは 300 円払えば 2 分間自由に使うことができる。この双眼鏡は万博側にある。さらに、南側には下がガラスになって



【写真：展望台からの景色(4枚)】



いる場所がある。ここで撮影すると良い写真を撮ることができる。有名な場所の展望台の高さ比べもあるが、これを見るとあべのハルカスの展望台は通天閣よりも圧倒的に高く、東京タワーの特別展望台よりも高いことに驚く。

展望台から帰る際は 59 階から帰ることができる。59 階からでも景色を楽しむこともできる。こっちの方が空いているので穴場かもしれない。59 階に

はレストランとお
土産屋がある。レス
トランはビュッフ
エ・食べ放題なの
で、大変人気だ。ま
た、お土産屋にはあ
べのハルカスのキ
ャラクターである、
あべのべの人形や



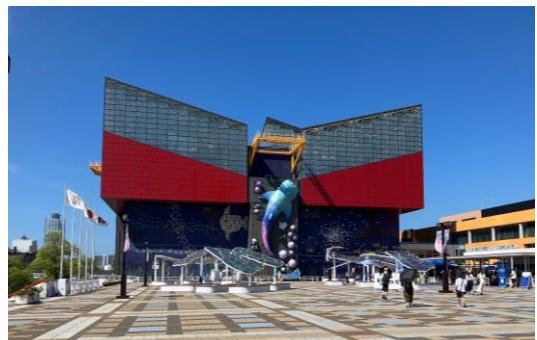
カステラなどを買うことができる。58 階には広場がある。この広場の真ん中にはガンダムの頭があり、あべのハルカスの象徴となっている。これを見てから帰るとなぜかあべのハルカスを完全に満喫した気分になる。



8. 海遊館

文責：岡崎 里杜

遠目から見てもすぐわかる特徴的な赤と青の外観が有名な、海遊館。全国でも珍しい、ジンベイザメがいる水族館である。中に入るとまずは大きなアクアトンネルがお出迎え。まるで本当に海の中にいるみたいで、序盤から興奮がとまらなかった。その後は、天井がガラス張りで開放感がある自然エリアへ。3、4匹のカワウソが歩いて



【写真：特徴的な外観】



【写真：アクアトンネル】

いる姿がなんとも愛おしかった。その隣には蓋のない水槽に小魚が群がって泳いでいた。

この海遊館のすごいところは、なんといっても水槽だ。どの水槽も同じ装飾では飽きてしまうが、海遊館では地域ごとに水槽が区切られており、その地域の環境に合わせた装飾や背景を採用している。そのため、まるでその地域に入り込んだような感覚が味わえ、より幻想的で壮大な世界観を生み出している。例えば、

アメリカ西海岸のモンタレー湾や北米と南米の間にあるパナマ湾など、現地に行ったことがなくてもその地域の特徴が一目でわかる。それに加えて、そこで暮らす生き物たちも今までの環境にとっても近いため、ストレスなく生活できるだろう。魚も、黒やグレーなどのモノトーンから、奇抜な赤やピンクの魚まで多種多様だった。そのような水槽のそばを通っていくと、目を引く動物がいる。そう、ペンギンだ。中には、ペンギンのいる極地の環境を再現するために、雪が積もっていた。また、疑似的な雪が降っており、より没入感を増してくれる。



【写真：色とりどりの魚とサンゴ(左)／ペンギンエリアに積もっている雪(右)】

その後に見れるのは海遊館内最大規模の水槽、太平洋水槽だ。縦に長く、何階にもわたって魚を眺められる。また、水槽の上部と下部では魚たちの行動にかなり違いがあったので、後ほど紹介する。海遊館といえばジンベイザメというイメージがあり、「太平洋水槽は、ジンベイザメがスペースの大半を占めていて、他の魚は脇役程度にいる」と思いがちであるが、じつはそんなことはなく、エイやら大きな魚やらがのびのびと過ごせる空間ができている。そのため、ジンベイザメの大きさがより際立つようになっていて、

他の魚の魅力にも気づくことができる。そもそもジンベイザメは、体長5 m～12 m、長いものであれば20 mを超える個体もいて、体重20 t（ゾウ三頭ぶん）の現存する世界最大の魚である。そんなジンベイザメがガラス越しに至近距離まで近づいてくるのだから、いうまでもなく迫力満点である。



【写真：迫力満点のジンベエザメ（左）／エイも元気に泳いでいる（右）】

一方、水槽の下部では下の写真のように底に張り付いて休憩している魚が多く、泳いでいる魚は少なかった。水槽の上部とはかなり違いがあり驚いた。



【写真：太平洋水槽下部の様子】

さらに進むと、クラゲ水槽エリアや、北極圏の展示があった。北極圏エリアでは、室温を下げ、より北極の環境に近づけていてよかった。その奥には、海のゴミ問題についての展示もあった。展示では、実際にあった話が書かれていた。「高知で定置網に迷い込んだ子供のアオウミガメ1頭を保護したが、元気そうに見えるのにエサを全く食べなかった。原因を調べると、誤飲したプラスチックゴミだった。」日々増え続けるゴミ。それを決して海に投げ捨ててはいけない。そんな、痛いところを



【写真：優雅に泳ぐアザラシたち(左)／保護したアオウミガメが1カ月で排泄したゴミ(右)】

突かれた気がした。環境問題の深刻さを痛感する展示だった。

海遊館にはお土産ショップが2つあるので、好きなグッズを見つけることができる。そんな生物の尊さや、幻想的な世界を味わえる海遊館。海の生き物が好きかどうかに関わらず楽しく学べるととても良い施設だと思う。

9. 四天王寺

文責: 上野 開都

大阪の観光といえば大阪城、道頓堀、通天閣……といろいろあるが、あまり四天王寺は知られていない。実は四天王寺は由緒ある寺で、なんと聖徳太子が物部氏と争いをしていた時に勝利を祈るために作られたのだ。また 593 年に建てられ、日本最古の仏教勢力なのである。下の写真のように法隆寺と作りが似ていて、まるで奈良のような雰囲気がある。実際に四天王寺に入ってみると、回廊のようになっていて建物が直線上にあるように感じられた。さらに五重塔にも入ってみると法隆寺のように筒抜けではなく、五階まで登ることができた。他にも宝物館があったが残念ながら入ることができなかった。

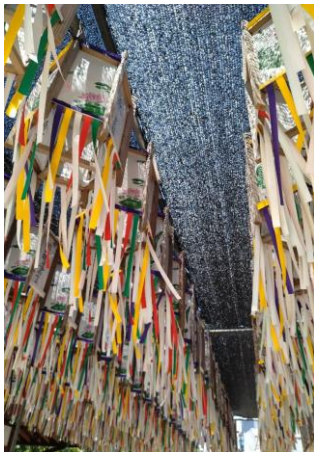
四天王寺はさまざまな場所の名前の由来になっている。例えば大阪の駅の名前に「天王寺駅」という



【写真：四天王寺の境内】



【写真：五重塔(左)／回廊(右)】



【写真：境内の様子(2枚)】

名前がある。この駅の名前の由来は四天王寺から来ていて四天王寺は現代にも影響を及ぼしているのである。

また、四天王寺の近くには日本一高いビルのあべのハルカスがあり、町も発展していると言えるだろう。このことから僕は四天王寺が発展の源ではないかと考える。

そして何より四天王寺は素晴らしい寺なので大阪に行ったらぜひ訪れてほしい。

10. 世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」

概要 文責：遠藤 壮一郎

大阪府の堺市・羽曳野市・藤井寺市にある百舌鳥・古市古墳群は、古墳時代の最盛期であった4世紀後半から5世紀後半にかけて築造された、古代日本列島の王たちの墓群である。古代日本の政治文化の中心地のひとつであり、大陸に向かう航路の出発点であった大阪平野に位置している。墳丘の長さおよそ500mにおよぶものをはじめとする、世界でも独特な鍵穴型的前方後円墳が多数集まり、これらと多数の中小墳墓が密集して群を形成している。この古墳群には、前方後円墳、帆立貝形墳、円墳、方墳という4種類がある。これらの型式は、日本列島各地の古墳群の規範となり、標準化されたものとなった。世界各地の多くの墳墓の墳丘が棺や室に盛土・積石しただけであるのに対して、古墳の墳丘は葬送儀礼の舞台として幾何学的なデザインを施し、埴輪などの土製品で飾

り立てたものだった。百舌鳥・古市古墳群は、群として築造された墳墓の規模と形によって当時の政治・社会の構造を表現したと言われている。すなわち、これら古墳群の築造により社会階層の違いを示唆する高度に体系だった葬送文化が作られ、これら古墳群が社会の秩序を表現した。各地の古墳群が形づくる階層構造の頂点に位置し、列島一円の古墳群の群構成の規範となったのである。

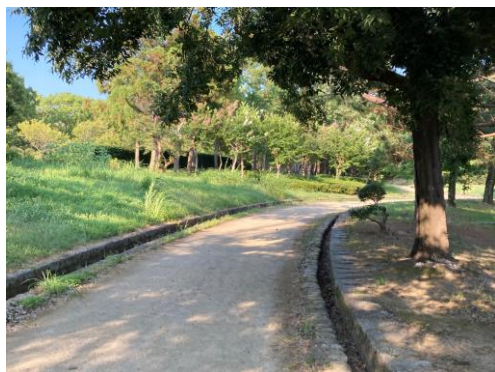
古墳の墳丘は、円・三角・方の各種幾何学的図形、ならびに水平面および一定の角度に保たれた斜面を組み合わせたものである。仁徳天皇陵古墳は、墳丘長 486m、高さ 35 m、体積 140 万 m³、応神天皇陵古墳は、墳丘長 425m、高さ 36m、体積 143 万 m³に及ぶ巨大な土製構造物であり、桁外れのスケールの土木工事を必要とした。このような極めて大規模な立体物が築造された背景には、周到な設計と高度な測量技術や土木工学に基づく施工技術、そして高い労務管理能力があったものと考えられている。

古墳の墳丘は、濠の開削や周辺の掘削によって生じた土を盛り上げることによって作られたもので、墳丘斜面は、25 度前後の勾配の斜面と水平面を組み合わせ、2 段ないし 3 段に築かれた。墳丘の発掘調査の結果、この古墳群の中には、土壌、粘土、礫等の質の異なる材料を使い分けつつ、細かい単位で規則正しく積み上げられた土層構造が観察された古墳もある。墳丘の斜面には、人頭大からこぶし大の礫が葺かれた。これを葺石といい、墳丘の装飾および盛土の崩落を防ぐ保護のための意味があったと考えられている。

墳丘の頂上部とテラス部分、堤上には、葺石の施工と相前後して埴輪が立て並べられた。埴輪とは、古墳の表面を飾るために用いられた焼き物であり、筒状の円筒埴輪とモノや生き物を象った形象埴輪の 2 種がある。圧倒的多数を占めるのは円筒埴輪で、古墳築造のたびに膨大な量が焼かれて設置された。特に巨大な仁徳天皇陵古墳や応神天皇陵古墳の場合、円筒埴輪が 2 万本以上焼かれ、墳丘上をおごそかに飾ったと考えられている。

大仙公園 文責：薛 文森

大仙公園とは堺市に存在する都市公園である。今回の巡検では大仙公園に行ってきたため、現地の様子をこれに記載する。まず、この大仙公園を簡潔にまとめると「とても充実した都市公園」である。この公園の大きさは 0.81km²、公園の周りの長さは 1.52km とかなり大きい。実際、地元の人がランニングをしていた。このことから地元の人も運動をする為に集まってくるということもわかった。さらに、この公園では自転車を借りることができる為、観光客でもサイクリングを楽しむことができる。しかもこの公園には観光客がほとんどいないため、大阪の観光スポットの中でもかなりの穴場スポットだと思う。またこの写真のようにカフェもあるため非常におすすめ。また、大きな駐車場もあるため交通アクセスがいい。



【写真：大仙公園内の景観】

上の写真のように花畑もある。次に大仙公園内に存在する施設について紹介する。まず堺市博物館である。この博物館は今回の巡見の際にまたま休館日だったので中に入ることとはできなかったが、この博物館には古墳の中にあった宝物がたくさん展示されているため古墳巡りの前に見ると理解度が高まるだろう。次に庭園について、今回大仙公園に行った時にはすでに庭園が閉まっていた中



【写真：堺市博物館】



【写真：園内には大きな庭園がある（3枚）】

には入れなかったが柵の隙間から見ると、かなり大きい庭園であった。とても都市公園の中にあるとは思えないくらい大きかった。

まとめ。大仙公園は都市公園とは思えないくらい充実した公園となっています。観光客もほとんどいないため、京都を敢行しに言ったときにぜひこの場所に行ってみるのはいかがでしょうか。余談ですが僕は、大仙公園からホテルに戻る際に百舌鳥駅のホームでスマホを落しましたが優しい人が駅員さんに渡してくれていました。東京では絶対放置されているのに…。この機会に大阪の人は優しいということを身をもって体験しました。でも旅行してわかるけど東京よりも他県の方が圧倒的に優しい人が多いよね。

最後にこの公園最大の目玉である古墳たちについてこの公園で今回7個ほどの古墳を巡った。全ての古墳を紹介するのは不可能に近いため、今回は特に印象に残ったものを紹介する。

グワシヨウ坊古墳 文責：薛 文森

この古墳は五世紀後半に作られた円形古墳。百舌鳥古市古墳群のひとつ。名前が非常に面白い。気になった人は画像を見てください。あと今回みた古墳全てに当てはまることだが。古墳は正直横から見るとただの丘のためよくわからない。



【写真：グワシヨウ坊古墳（2枚）】

孫太夫山古墳 文責：薛 文森

この古墳は五世紀中頃に作られた前方後円墳。この古墳は仁徳天皇陵の中心線上に位

置している前方後円墳。大仙公園内に存在する古墳の中で最大級の大きさ。しかも入り口のすぐそばにあるため主張が強い。また読み方が面白い。



【写真：孫太夫山古墳（2枚）】

仁徳天皇陵 文責：薛 文森

世界三大墳墓の一つ、なんなら大きさはこの中で一番大きい。実際に見ると大きすぎてただの土手のように見える。また、宮内庁が立ち入りを禁止しているため大山古墳の中には入れない。仁徳天皇陵の底辺の中心線上には神社がある。この古墳を一言でま



めると「土手」である。とても人が作ったようには見えなかった。観光客はほとんどいないためおすすめ。しかし、あまり面白くない。



【写真：仁徳天皇陵（2枚）】

11. 大阪合宿旅行記

文責：鈴木 涼太

私が 2025 年 8 月 4・6 日に城北学園地理部の一員として行った大阪での出来事について書きたいと思う。1 日目は新大阪駅に到着した後、各班に別れ大阪城へ向かった。



【写真：大阪城付近のようす】

のお店で食べるたこ焼きとは違い柔らかい食感が特徴的だった。

次にあべのハルカスへ向かった。
あべのハルカスとは 2025 年 8 月現在日本で 2 番目に高い建物であり、展望台から大阪を一望できる。あべのハルカスのエレベーターでは今実際に高さ何メートルの所に居るのか確認することができて、非常に興味深かった。これで 1 日目の観光は終了した。



【写真：あべのハルカス展望台(左2枚)／「たこ焼き十八番」で購入したたこ焼き(右)】

大阪城付近では外国人観光客で溢れており、日本人の方が少ないと感じるほどであった。

大阪城天守閣への入場のために長蛇の列が出来ており、私たち班員は時間の都合もあり天守閣の中に入るのは断念した。

次に道頓堀へ向かい、昼食をとることにした。道頓堀では大阪城に比べると外国人観光客が少なかった印象を受けたが、やはり夏休みという時期や大阪の観光名所ということもあり非常に人が多かった。私たちは大阪名物のたこ焼きを買った。東京





【写真：大阪・関西万博】

向かってそれぞれポーズを取り、それを現代の加工技術を用いて様々な表情に合成したりする技術を体験した。違和感なく様々な表情になったり、歳をとる加工を施された私たちの映像を見たりして、現代の技術の巧みさに感心すると共に感動も覚えた。また外国人観光客の多さについて言及すると、道頓堀周辺よりは多くて、大阪城周辺よりは少なく感じた。「大阪城＞万博＞道頓堀」と言ったところであろうか。

万博会場を出て、夕食をとることにした。宿泊していた弁天町で、個人経営のお好み焼き屋に行った。お好み焼き屋の店長さんの人柄がとても暖かく、退店する時にわざわざお店から出てきてくださり、「おおきに！またお願いします！」と言って下さり、心まで満たされた。こ

2 日目は顧問の先生と部員全員で万博へ行った。万博は非常に賑わっており、活気があった。

私たちはベルギー、バングラデシュ、フランスなど様々な国のパビリオン、その後に NTT やバンダイナムコなどの企業パビリオンも見学した。

NTT の企業パビリオンでは実際に 3D メガネをかけて、Perfume という女性アーティストグループのライブを特等席で見ているような体験をした。

本当にライブを 1 列目の席で見ているような感覚がして、足音までも完璧に再現されていた。

また来場している人全員がカメラに



【写真：ガンダム館】

れで2日目の観光は終了した。

3日目は、1日目と同様にもう一度大阪市周辺を観光した。1日目と同様の感想であるためここでは割愛する。この夏合宿は実質私たち高2の現役最後の合宿であった。私は高1から城北学園地理部に入部し、金沢や名古屋や大阪へ行き様々なことを学び体験した。大阪合宿では、万博で様々な体験をしたことや、大阪を観光しただけではなく、中1の新入部員との交流が深められたのが嬉しかった。

〈参考資料〉

2025 年日本国際博覧会大阪・関西万博公式ガイドブック

EXPO 2025 大阪・関西万博公式 Web サイト

外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/france/data.html>

大阪公式観光情報 <https://osaka-info.jp/>

日本経済新聞 <https://www.nikkei.com/>

VOGUE JAPAN

通天閣パンフレット

通天閣公式サイト <https://www.tsutenkaku.co.jp/>

心斎橋筋商店街公式ホームページ <https://www.shinsaibashi.or.jp/>

心斎橋-大阪市 <https://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/>

道頓堀商店会 <http://www.dotonbori.or.jp/ja/>

<https://www.expo2025.or.jp/official-participant/bangladesh/>

<https://www.expo2025.or.jp/official-participant/france/>

<https://expo2025germany.de/startseite-jp/>

https://ecodb.net/ranking/imf_lp.html

<https://prtimes.jp/main/html/>

<https://ameblo.jp/coco-20220314/entry-12905141499.html>

<https://shirobito.jp/article/1331>

<https://www.shirofan.com/shiro/kinki/osaka/minamisotobori.html>

<https://www.shirofan.com/shiro/kinki/osaka/takoishi.html>

<https://tabi-mag.jp/os0317/>

<https://kojodan.jp/castle/15/memo/818.html>

<https://nyokan.com/>

<https://www.hokke.co.jp/osaka/blog-osaka/attractions-osaka/>

https://www.mozu-furuichi.jp/jp/learn/mozu_furuichi.html

第二章

春合宿

～名古屋メトロポリタンエリア～
(2025 年 3 月 25～27 日)



1. 名古屋市 概要

文責：遠藤 壮一郎

日本の真ん中・愛知県西部に位置し、日本三大都市のひとつでもある名古屋市は日本のほぼ中心に位置し、歴史と文化が魅力あふれる都市である。金のシャチホコで有名な名古屋城をシンボルとし、周辺には基幹産業である自動車製造業が多く集まっているため名古屋港は国内トップクラスの貿易を誇り、産業や文化でも独自の地位を築いている。また、海外主要都市と姉妹都市連携を結び、世界会議を誘致するなど国際都市としての歩みを加速させている。

名古屋市は濃尾平野の伊勢湾に面したところに位置し、東部は丘陵地、中央部は台地、北・西・南部の沖積地の3つに分かれており、中央部の堀川以東に広がる洪積台地は地盤が良好であるが、北・西南部に広がる沖積平野は地盤が軟弱で、海拔ゼロメートル地帯を含む低地である。名古屋市の気候は比較的穏やかだが、夏の平均湿度は70%を超すことが多くてむし暑く、冬は「伊吹おろし」と呼ばれる冷たい北西の季節風が吹き、季節により厳しい面もある。また、交通の面では鉄道や幹線道路、名古屋港を抱えるなど、広域の交流ネットワークの中心地市内の交通網も充実しており、多くの人でにぎわっている。都内へのアクセスも良く、仕事・休日の外出で東京に行きやすくなっている。名古屋市には歴史的な観光名所から、話題の商業施設、オリジナリティあふれる料理など様々な見所がある。

2. 濃尾平野の自然と暮らし

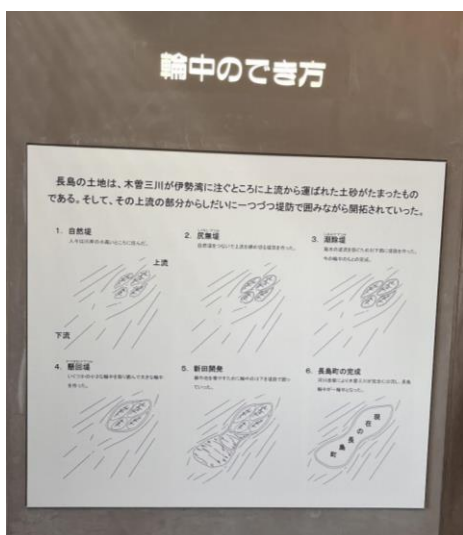
輪中 文責：薛 文森



【写真：輪中の概観】

①輪中の概要—輪中濃尾平野の西南部では、低湿地に木曾三川が集中し、排水が悪くしばしば洪水の被害をこうむっており、農民たちは古くから自然堤防などの微高地に集落と耕地をつくってきた。輪中は、水害から守るため、集落や耕地の周囲を堤防で囲んだところであり、濃尾平野では大小45の輪中が連なっている。

②輪中の形成—当初、堤防は集落・耕地の上流側にあたる部分に造成され、濁流の激突をかわすことに努めた。こうした堤防は、下流からの浸水にはまったく無防備であったが、耕地は冠水しても土砂による埋没・荒廃は免れ、反面、肥沃な土壌が堆積して地力はむしろ年々更新されていった。当初は最も高



【写真：輪中のでき方】

くて安全な場所、即ち堤防上に住居を営み、堤防上に一列に並ぶ「列状集落」を形成した。その後、築堤技術が進歩し、完全な水防を求める農民たちは、集落や耕地を全面的に取り囲む堤防を築くようになった。その結果、河床は堆積により年々高くなっていき、河川はしだいにせばまり、排水時には土砂はもっぱら堤外地に堆積することとなった。そして、河床は一段と高まり、輪中はさらに低湿地化の度合いを高め、外からの洪水と中からの排水の両方に対策を講じなければならなくなった。輪中は、水害から身を守る農民たちの発想から自然に生まれただけでなく、近世の洪水対

策にも原因がある。宝暦治水がその代表的なものである。輪中は、用水獲得が容易であるように思われるが、輪中堤に取入口を設置することは破堤の原因になることが多く、むしろ輪中は引水に困難であり、掘抜井戸による地下水の利用が発達した。また、輪中内は慢性的に排水困難なため、水田は掘り上げ田の景観を呈するようになった。水管理の重要さは輪中に住むものにとっては、生活上不可欠なものであり、水と戦うというイメージで輪中を捉えがちになるが、むしろ水とともに共存をいかに図るかによって生計を成り立たせてきた。墨俣輪中の「輪中組合村々締書」には、堤の六合目より水番が見回りを始め、七合目なれば村役人までも、頻繁に見回り、同時に家財道具の取り片付けを行い、八合目になれば15歳以上から60歳までの男子は全員堤防に駆けつけるなどを細かく規定している。堤内の収穫如何によっては共同体の崩壊もありえたため特に在地の武士などは、率先し堤防の保護にあたり、身をもって生活を守ったとも言われている。



【写真：宝暦治水の説明】

③水屋—水屋は特に盛土集落に見られ、水屋の土盛り高は母家の軒高が基準になり、土手は石垣にしていた。味噌部屋には漬物類をいつも保管し、水害避難時にはしのげるようになっている。また竹を間引きして豆類、つる植物を植え、土手には根や松の大木を育て、水害時母家や流失のおそれのある道具類をつなぎ止める役割を果たしている。水害時用に上げ舟の備えもあった所もあるが、今では見られない。建てる位置は、西、西

北、北でこれは冬の季節風をしのぐために作られている。農家が瓦屋根になると台風などの大風をさえぎるものがない平坦地に二階家を建て、この二階を水屋代わりにするようになった。水屋にも3つの形態があり、米倉式水屋、住居兼用水屋、水屋式住居と分けられるが、普通は水屋と住居兼用水屋に分けられている。



【写真：現在も残っている水屋】

〈米倉式水屋〉倉庫式の米倉で農家経済の中心である米を保管しておくもので、現在は利用が少ない。

〈住居兼用水屋〉居室、米倉、味噌部屋、土間を備えた水屋で母家と水屋とを階段廊下で結んだものが多い。現在では居室は物置または寝室、物置に利用しているものが多い。

〈水屋式住居〉土砂が容易に入手できるようになり、財力のある者は住居全体をかき上げて水屋と同様の高さにしたもの。川より3～4m高く石垣を積み上げ、その上に住居を構えた。

④輪中の郷—輪中の郷は三重県桑名市長島町にある長島の歴史・文化・産業を紹介する複合施設であり、今回は輪中をメインにして調べた。

〈伊勢湾台風〉1959年（昭和34年）は紀伊半島から東海地方を中心にほぼ全国にわたって甚大な被害をもたらした台風である。伊勢湾沿岸の愛知県と三重県での被害が特に甚大であったことからこの名称が付けられた。死者・行方不明者の数は5,000人を超え、明治以降の日本における台風の災害史上最悪の惨事となった

特に顕著であったのは高潮の被害であり、伊勢湾台風の高潮が記録的であったのは、台風の勢力が強大で猛烈な吸い上げ効果があったことと、伊勢湾が奥行き深く遠浅でその影響を受けやすかったことによる。また、地形が高潮や津波が河川遡上しやすい構造と



【写真：左側が木曾川の土手。右の輪中の低さがよくわかる。】

なっているため、河川堤防も決壊した。風向きと、高潮が押し寄せる方角が同じであったことから、暴風によって、陸地に押し寄せる高潮を加速させた。台風による大雨も高潮による陸地部分の浸水の深さを増す



【写真：伊勢湾台風のようなす(左)／伊勢湾台風時の浸水の深さを表した標(右)】

ことになった。名古屋港は、外洋への出口が狭いことと、河川・河口部が多いことから降水単独による潮位上昇も起きやすい傾向にある。

農業科学館 文責：塚崎 瑛登

農業科学館は戸田川緑地の中の農業文化園園内にあります。展示内容は稲作農具の作業ごとの展示・解説から昆虫標本と多岐に渡ります。日本における農業の歴史や愛知県の各地域で生産されている農作物についての展示がありました。また、昔の稲作農具や米作りの道具も展示されていて、動かしたり、触ってみたりと少しだけ体験できるコーナーもありました。

3. 歴史と文化

名古屋城 文責：石根 優希

3月27日に名古屋城に行った。まず名古屋城の目玉、シャチホコは雄が高さ2.621m、重さ1,272kg、雌が高さ2.579m、重さ1,215kgです。なお見分け方は雄の方が口が大きく雌の方が小さい。ちなみに名古屋城は戦争中に一度全焼しており、いまの名古屋城は2018年に再建されたものである。というわけで本丸に入ろうと思ってたがどうやら2018年から老朽化と耐震性の問題から入ることができなかったの、名古屋本丸御殿を見学した。まず入ると床が キィキィ 言ってるさかった。が、実はこの音は、昔の人からしたら非常に重要なことだ。実は二条城などの昔の寺や城ではこのように、歩くと音を鳴らす床も珍しくなく、このような床を「うぐいす張り」という。ではなぜこのよう

になったのか?それは、不審者や忍者が通ったときに音が鳴り気づく事ができるから。そして目上の人が部屋に来る合図にもなっていた。と、ここまで、わざと 作った という感じで書いてきたが、実は一般的には「時間の経過で音が鳴るようになってしまったが、結果的に上記のことに使えた」と言われている。さてうぐいす張りの話はここまでにしてさらに奥に進むと、ふすま絵がある。これは竹林豹虎図で作者は狩野派の人物だ。この絵は名古屋城が全焼した時には違う場所にあったため、燃えるのは免れた。そしてここは中学生以下は無料なので是非行ってほしい。



【写真：名古屋城天守閣】



【写真：うぐいす張りの床(左)／ふすま絵「竹林豹虎図」(右)】

岐阜城 文責：切手 悠介

金華山山頂に位置し、急な崖の上にそびえる岐阜城は、難攻不落の城としても知られ、「美濃を制すものは天下を制す」と言われるほどだった。実際に山登りしてみると、最短の馬の背登山道でも、40分はかかってしまう。さらに、この登山道は、近道であるがために、急な崖を登る必要がある。そのため、死者も出てしまっている。登る際は十分な注意が必要だ。馬の背登山道の他にも、初心者向けの道もある。めい想の小径である。この登山道は、初心者向けの道であるがために、馬の背登山道のように死者が出る訳ではない



【写真：岐阜城】



【写真：二つの織田信長像(上／右)】

が、それでも登るのは大変である。この登山道を登る際も十分な注意が必要だ。また、岐阜城に歩きで登山をしないで行く方法として、ロープウェイを使って行く方法がある。ロープウェイは、岐阜城の近くまでに4分かけて行くことができる。徒歩で登山する時よりも結構早く着くことができるので、岐阜城にはロープウェイで行くのが最適と思われる。ロープウェイは、片道だと800円かかるが、往復だと1300円かかり、片道を2回買うよりもお得である。また、登山して岐阜城に行きたい人はロープウェイに片道乗り、登山しないで岐阜城に行きたい人はロープウェイに往復乗れば良い。ロープウェイには、必ずガイドさんが一緒に乗っている。ガイドさんは、ロープウェイからの景色や、金華山の概要、岐阜城の概要などについて詳しく説明していただける。ロープウェイからは、三重塔や、岐阜市内を見下ろすことができる。

岐阜城は戦国時代、小説「国盗り物語」の主人公である斎藤道三の居城であった。その後、織田信長がこの城を攻略、城主となり、地名を「岐阜」に、「稲葉山城」を「岐阜城」に改めたといわれている。しかし、慶長5年8月、関ヶ原の戦いの前哨戦の際、織田信長の孫・秀信が西軍に味方したため、東軍に攻め入られ、激戦の末落城。東軍総大将の徳川家康は、9月1日に江戸を出発し、関ヶ原の戦い前々日の9月13日岐阜城に宿泊している。現在の城は、昭和31年に復興され、鉄筋コンクリート造り3層4階構造で、岐阜市のシンボルとなっている。城内は史料展示室、屋上は展望台となっている。

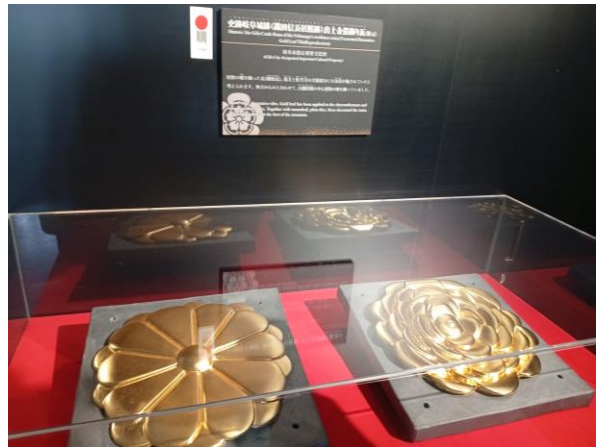
城内にある史料展示室には、織田信長をはじめとする織田家や斎藤道三などの戦歴や史料、太平洋戦争時に実際に使われた日本刀、織田信長や斎藤道三の像、岐阜城周辺の模型、出土金箔飾り瓦などが展示されていて、展望台には、望遠鏡や景色を眺めながら座ることのできるベンチなどがある。展望台からは、近くを流れる長良川やそこにかかる長良橋と鵜飼い大橋、長良川競技場、麓の岐阜市、岐阜シティータワー、遠くでは、

恵那山、木曽御岳山、乗鞍岳、日本アルプス、伊吹山、養老山脈、伊勢湾などの壮大な景色をみることができる。岐阜城は昼間の景色だけでなく、夜景も評判がよくなっている。また、岐阜城自体も日没～夜 11 時までライトアップされていて、暗闇の中にその姿が浮かび上がっている。

岐阜城から少し山を降りたところには、岐阜城資料館もあり、そこは 1975

年 4 月に昔の武器庫、食糧庫を隅櫓城郭造りに再現して建てたもので、内部は基本的には写真は撮れないが、複数あるフォトスポットでのみ写真を撮ることは可能である。展示は、織田信長と斎藤道三の像と、「麒麟が来る」などの有名な大河ドラマで実際に使った衣装などがあり、攻めにくい岐阜城にちなんだフォトスポットも複数ある。

岐阜城は、近くにある岐阜城資料館もあわせて安く入れるので、是非一回は行ってみると良いだろう。



【写真：資料館の金箔飾り瓦】



【写真：高くそびえ立つ岐阜城、金華山(左)／ロープウェイから見る三重塔(右)】

犬山城 文責：上野 開都

犬山城は室町時代の天文 6 年に築城された現存天守で日本最古の城である。織田信長の父である織田信康が築城し、扇状地の要にある。戦国時代では重要視され天守閣最上



【写真：国宝犬山城】

階に行くと濃尾平野を一望することができる。実際行ってみるとたまたま黄砂で一望することはできなかった。これから2つ見どころを紹介しよう。

①城下町－犬山城の最寄駅は犬山遊園駅だが、今回は犬山駅で降りて歩いて行った。その時に城下町を通ったがどこの家も江戸時代に作られたものが多く、古いところでは室町時代からあるものもあった。城下町には寺院がたくさんあって昔の城下町を感じられた。さらに進むと目の前に国宝の犬山城があり、その高さや天守閣の凄さに圧倒された。また、城下



【写真：城下町の様子(2枚)】

町で買い物や観光をしていた人がとても多く、後に犬山城を観光する人が非常に多いため、早めに登城した方が良いと思われる。

②天守閣－天守閣は5つの国宝の天守閣の中で一番小さく人気もあまりないが、作られたのは室町時代で、日本の天守閣の中で一番古い城である。城は地下一階、一階、二階、三階、四階の五階建て構造で、入ってみると意外と一番上まで、30分以上かかる。右の写真を見ると最上階は景色をながめることができ、木曽川とその周辺の栄えた町がみえて昔の町を感じられた。中は下の図のようになっていて、意外と外見よりも広く感じられた。また、壊れた鯨などの珍しい展示を見



【写真：天守内部の広間(左)／シャチホコ(右)】

ることができた。また、現存している天守なので、階段がとても急で降りる時が一番怖かった。他にも犬山城のミックを見ることができ、面白かった。

熱田神宮 文責：高 隼人

熱田神社は創祀 1900 年という長い歴史のある神社である。三種の神器の一つである「草薙の剣」を御神体としていることで有名である。熱田神宮は 113 年、日本武尊（ヤマトタケルノミコト）が伊勢の国・能褒野で亡くなり、草薙の剣を熱田の地に祀った。これが熱田神宮の始まりと言われている。現存している熱田神宮は 1955 年に再建されたものである。また、熱田神宮の本堂には入ることができない。そのため写真が主にへい、熱田神宮宝物館などを紹介する。本堂の写真を撮ること自体は禁止されていないが背中に何らかの圧を感じたためとらなかった。ネット上にも熱田神宮の本殿の正面から撮影した画像がないのもそのためだろう。



【写真：熱田神宮境内】

本殿について、本殿は賽銭箱の上から見える本殿と賽銭箱の間には 7 m ほどの芝生がありその先には本殿がある。また、賽銭箱の両脇には警備員さんがいるため賽銭箱の先に行くことはほぼ不可能だろう。本殿の様子は奈良の正倉院に近く色は赤色ではなく黒に近い灰色だった。普通の神社とは明らかに様子が違った。

つぎに、信長塚について、1560 年織田信長が桶狭間の戦いの際、熱田神宮に行き願っ



【写真：信長塚（3 枚）】



【写真：宝物館】

た。結果はご存じの通りである。信長はそのお礼として、この塀を奉納した。土と石灰を油で練り固め、瓦を厚く積み重ねて作られている。また、日本三大土塀の一つとして有名である。

その次に、宝物館について、宝物館は入館料 200 円ではいることができる。中には熱田

神宮の宝物が大量にある。例えば平安時代のお面や鎌倉時代の刀、襖などの貴重なものや文化財など、60 個以上はあった。少なくとも 200 円の価値は絶対にある。また、なぜか南極の石があった。

最後に熱田神宮の境内について、境内は写真のような大きさの鳥居などが何個かある。また、熱田神宮は前の熱田神宮の地図からわかるように 2 つの神社と接していることがわかる。熱田神宮は、



【写真：境内のようす(3枚)】

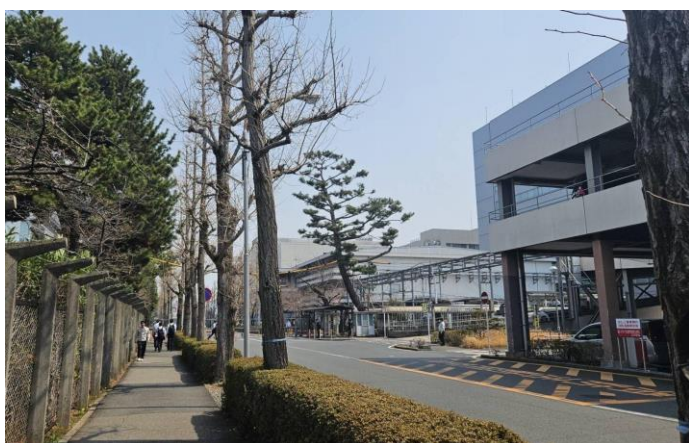
村田先生曰く、愛知県民が結婚式をよく行う場所であるとのことである。その言葉通り、今回我々が熱田神宮に巡検にいった際、実際に結婚式を行っているカップルを何組か見た。右上の写真は授与所。右下は熱田神宮会館である。また、巡検をした日が平日であったので人が少なかったが、週末や祝日はおそらく混むため気を付けていただきたい。



4. トヨタグループの産業と技術

トヨタ自動車本社工場 文責：為野 進也

トヨタ自動車本社工場は愛知県豊田市トヨタ町に位置するトヨタ自動車株式会社の



【写真：トヨタ自動車本社工場】

本社工場。1938 年(昭和 13 年) 11 月に生産開始され、これが豊田市の工業化のきっかけとなり、後に現在の企業城下町が形成された。また、設立当時は挙母工場という名前だったが、1960 年に本社工場の名称変更された。敷地面積は 55 万平方メートルで、これはトヨタ町の町域の大部分を占めており、人

口のほとんどは敷地内の社員寮の居住者によるものである。従業員数は 4264 人で鍛造部品などを生産している。

トヨタ会館 文責:安藤 隼太郎

トヨタ会館は 1977 年にトヨタのお膝元である豊田市に会社創立 40 周年を記念して設立された。自動車関連技術に加えてトヨタの環境や安全など、21 世紀を見据えた取り組みやビジョン なども紹介されている。また、予約が必要だが工場見学も可能である。具体的には、さまざまなモビリティによって体現される多様化技術や自動運転をはじめとする 知能化技術、カーボンニュートラルの達成を目指す電動化技術によって実現する未来の社会を 展示する「モビリティと自由」、トヨタのモノづくりの考え方、クルマをつくるための人の知恵 とくふうを



【写真：トヨタ車の展示】



【写真：レクサスなど多くの車種が展示してある(左)／「モビリティと自由」コーナー(右)】

生産工程とともに紹介している「生産と創造」、トヨタの取り組む社会貢献活動と企業のビジョンを紹介している「企業と社会」、モータースポーツ、ラリーの取り組みや、その時々話題のクルマを紹介している「TOYOTA GAZOO Racing」ショップ、トヨタ車、レクサス社の展示、と言ったふうになっている。

トヨタ博物館 文責：橋本 弓彦

トヨタ博物館は愛知県長久手市に位置する、トヨタ自動車の50周年事業の一環として設立された博物館で自動車文化の歴史をテーマにクルマ館と文化館に分けられて様々なものが展示されている。

クルマ館には、自動車の黎明期（ガソリン車の誕生）である1890年代から現在までのクルマ、更には未来（20XX年）を支える多様化したクルマが時系列で13のテーマに分かれて、トヨタに限らない日本や欧米の多数のメーカーのクルマが約150台が展示されている。実際に触ったり、乗ったりすることは出来ないものの、今では見かけ無い当時の旧車などなど貴重なクルマを間近で見ることができる。

文化館には、ポスターや自動車玩具などクルマの発展・浸透に貢献し共に歩んできた約4000点の資料が展示されている。これらも日本国内、トヨタに限らず様々な年代、国、メーカーのグッズを見ることができる。



【写真：シボレーシリーズ490〔米1918〕（左）／トヨタを代表するクラウンシリーズ（右）】

トヨタ産業技術記念館 文責：田畑 裕理

トヨタ産業技術記念館は近代日本の発展の礎となった「繊維業」と、現代の日本経済の支柱である「自動車業」の二つをテーマにその技術や機会を保存・展示し、広く社会に発信している施設である。

エントランスから入って左、中央にはかつて繊維業界に革命を与えた「環状織機」が展示されている。この機械はトヨタグループ創始者の豊田佐吉が開発したものであり、今のトヨタグループはこの機械から始まったと言っても過言ではないだろう。

チケットを買い、最初に入るのは「繊維機械館」である。ここは、建物全体が大正時代に建てられた紡績工場で、2007年に経済産業省から「近代化産業遺産」に認定されて

いる。外壁はレンガでできており、内部は木の梁や柱で構成されている。館内は道具から機械へ進化した繊維業の歴史をたどったり、織機や紡機の技術の発展を当時使われていた機械を実際に展示し、視覚的に分かりやすくなっている。また、糸車の実演を館内スタッフが解説しながら行ったりしていたのも印象的であった。

「繊維機械館」を抜けると、日本初の自動車を作ったトヨタの歴史を振り返りながら始まる「自動車館」に入る。ここでは、自動車工場の生産ラインが間近で観察できたり、かつての名車たちが並んでいる圧巻の姿を目にすることができる。また、豊田喜一郎が日本初の自動車を開発した秘話をガイドさんから聞くこともできるため、内容が入りやすかった。

このように、「繊維」と「自動車」二つの業界を支えてきたトヨタグループだけが知る技術や開発秘話などが聞けるのはここ、「トヨタ技術記念館」だけである。是非、行ったことのない人は足を運んでみてはいかがだろうか。



【写真：トヨタ産業技術館の環状線織機】

5. 岐阜市のランドマーク 岐阜シティタワー

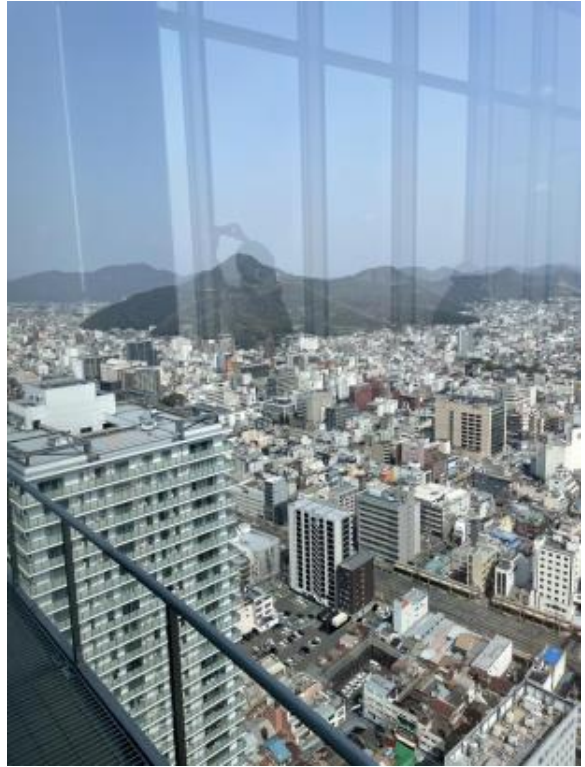
文責：安藤 隼太郎

岐阜シティタワー43 は、JR 岐阜駅から西に徒歩 3 分の場所にある地上 43 階、地下 1 階の 超高層再開発ビルである。岐阜県の建造物では一番、住宅を含む建造物では



【写真：岐阜駅から見た岐阜シティタワー】

中部圏一の高さ を誇る。設計は森ビル都市企画・竹中工務店共同企業体、総事業費は 150 億円となっており、用途は 43 階のスカイラウンジに加えて、共同住宅（分譲マンション 243 戸、高齢者向け優良賃貸住宅 108 戸）、商業施設福祉・医療施設、放送局（岐阜放送〈ぎふチャン〉本社・スタジオ、学習塾、駐車場などである。



【写真：スカイラウンジからの眺め。岐阜市街地が望める。(3枚)】

6. 春合宿 旅行記

1日目 文責：牛田 健心

3月25日(火曜日)8時50分東京駅動輪の広場集合。9時33分ひかり637号に乗り、名古屋へ出発。名古屋駅に11時14分に到着。到着後、昼食を食べました。メニューは冷やしきしめん。安さとおいしさを兼ね備えていました。13時熱田神宮到着。熱田神宮を見学しました。とても広く綺麗でした。少しですが桜も咲いていてよかったです。

13時40分熱田神宮出発。徳川園へ向かいます。14時30分到着。徳川園自体は中学



【写真：熱田神宮にて】

生は入場料無料で、綺麗な景色が楽しめました。しかし、徳川園の中にある徳川美術館は中学生入場料500円ちょっと高めだなと思いました。中は刀や資料など歴史が感じられました。

16時徳川園出発。ホテルのある金山駅へ向かいます。16時30分金山駅到着。その後7分歩き、名古屋金山ホテルに着きました。夜は世界の山ちゃん、手羽先を食べまし

た。実家が愛知にあるので、何回か食べたことがありましたが久しぶりだったので「こんなにみが少なかったっけ？」と食べながら思いました。美味しかったです。

22 時就寝。明日へ備えます。

2 日目【豊田班】 文責：五月女 紘大

オールシングルということで寝坊したら起こす人がいなかったが、誰も寝坊せず遅刻せずで良いスタートを切れた。まず向かったのは豊田市博物館。豊田なので自動車関係の博物館かと思ったが、意外とそうでもなくて、豊田市の土壌や生物など展示されてるものは多岐にわたっていた。特に昔の滑車の仕組みが面白かった。



【写真：滑車の仕組み】



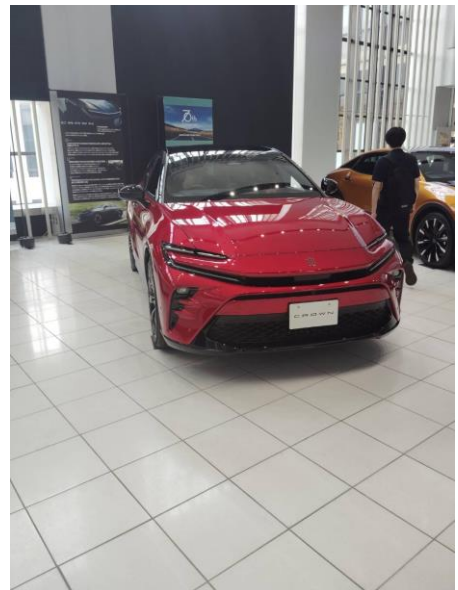
【写真：昼食のひつまぶし】

その後駅に戻り昼食を取ることにした。昼食は名古屋の様々な料理が食べられる店に入った。各々が食べるものは違うが、自分はせっかくなのでひつまぶしを食べた。

初めは鰻重とひつまぶしの違いが良くわからなかったが、注文して出てくるとお茶漬けにするなど様々な楽しみ方があって個人的には鰻重よりも美味しかった。

昼食後トヨタ会館に向かった。トヨタの車に試乗することができた。(もちろん運転するわけではないが)意外なトヨタの車種や様々な価格の車などを見てただ乗って遊んで終わりではなく、ここからも学ぶことができたと感じている。また未来の車や車の仕組みを体験でき興味深かった。

その後愛・地球博に行った。ぐるっと一周回った後資料館の方に行った。愛知万博は自分が生まれる前のものなのでピンとくるものではなく、「歴史」を学ぶと言った感じだった。ジブリのイベントがあったが、親子連れはあまりいなかった。ミーティングの時に齋藤先生がおっしゃっていたように様々な方法で映画やアニメが見れるが、ジブ



【写真：トヨタ車に試乗】



【写真：愛・地球博公園】

りだけテレビの再放送くらいしか子供が見る機会がないことと関係があるかもしれない。資料館に行く前にクラスのメンバーの発表があって盛り上がった。資料館では愛知万博がいかんにして開催されたかが学べた。

ホテルに帰って少し休んだ後、金山の少し先できしめんを食べた。優しい味で疲れた体に染み渡った。全体的に学びが多くいい旅行になったと思う。

2日目〔犬山・岐阜班〕 文責：牛田 健心

6時起床、身支度をし、ホテルの朝食へ向かいました。美味しかったです。9時出発の予定でしたが、1人寝坊し、全員で起こしに向かいました。

その後、10時8分犬山城到着。見学しました。犬山城の上から周りが見渡せました。



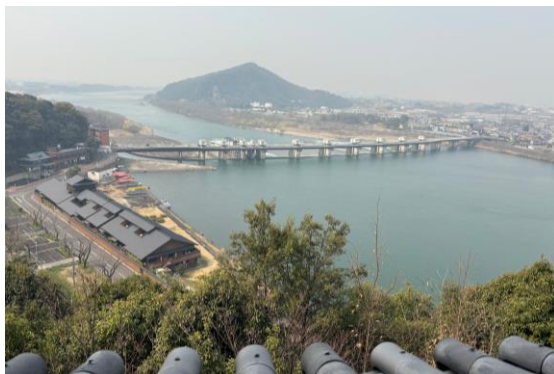
【写真：夕食のきしめん】



【写真：犬山城】

11時10分犬山城出発。岐阜駅へ向かいます。12時に岐阜駅に着き10分ほど歩き、ラーメンを食べに行きました。1杯600円で量もあり、破格でした。店を出たら、実家が岐阜にある城北生と会い、一緒に岐阜城へ行くことになりました。

岐阜駅からバスに乗り13時20分岐阜城のある山の麓に着きました。地理部7名+1名の8人で岐阜城へ向かうのですが、4人はロープウェイ、4人は山を歩いて岐阜城へ向かうことになりました。ぼくは歩いて向かいました。とても疲れましたが、とてもいい景色を見て、さらに、山の動物に会うこともできました。15時10分出発。バスに乗って駅へ向かい、電車を使いホテルに戻りました。



【写真：犬山城天守からの眺め】



【写真：金華山のリス(左)／金華山からの眺め(右)】

3日目 文責：鈴木 涼太・牛田 健心

城北学園地理部の 2025 年度の春合宿では名古屋へ行った。ここでは主に 3 日目について記していく。高 1 生は、まず朝ホテルをチェックアウトし終え、金山駅からトヨタの産業技術記念館へ向かおうとした。しかし、トヨタの産業技術記念館は 9:30 オープンであり我々が着く予定の時刻は 9 時頃であったため、急遽予定を変更して名古屋城へ向かった。実際に生で見る名古屋城は荘厳な雰囲気を感じられた。名古屋を代表する観光スポットと言え、筆頭として挙げられるのがこの名古屋城であろう。1610 年徳川家康が天下統一の最後の布石として築城を開始したのがこの名古屋城である。以来徳川御

三家のひとつに数えられる尾張徳川家の居城とされてきた歴史を持っているのである。

その後は高 1 の同じ班員と記念撮影をして名古屋城を後にした。次に栄へ向かった。栄の街並みを散歩しつつ楽しみ、中部電力 MIRAI TOWER にも訪れた。



【写真：本丸御殿のようす(左)／名古屋城天守閣のようす(右)】



中部電力 MIRAI TOWER は 1954 年に日本で最初の集約電波塔として建設された観光タワーである。開業以来初となる全体改修工事を経て、2022 年 12 月には全国のタワーとしては初となる国の重要文化財に指定された。その後は栄のインドカレー屋へ行き部員とインドカレーとナンを食べた。そして栄から名古屋駅へ徒歩で向かいつつ、名古屋の街並みを楽しんだ。名古屋駅に到着し、新幹線に乗った。

中 1 の班は 9 時予定でしたが、8 時半にホテルを出ました。でも今日も 1 人いません。昨日と同じやつがまた寝坊しました。8 時 40 分に起きる予定だったらしいです。(ｽﾝ)トヨタ産業技術記念館へ向かいました。11 時 30 分到着。

トヨタは車を作る前は織機を作っていました。織機の使

【写真：中部電力 MIRAI TOWER】 い方を体験しました。また、車を作る様子の一部を見学したり、実演も見ることができました。11 時 20 分トヨタ産業技術記念館を出て、名古屋城へ向かいます。11 時 45 分名古屋城着。その後、きしめんを食べに行きました。名古屋城の感想としては、思ったよりシャチホコが大きかったということです。

13 時 20 分名古屋城出発。名古屋駅へ向かいます。13 時 50 分名古屋駅到着。お土産をかうなりして集合時間になるまで待ちました。14 時 30 分の集合の時間になったら新幹線乗り口まで行きました。新幹線が来るまでの約 10 分は新幹線が A か S かの話し合いです。結局 A でした。(S がよかったな…) 14 時過ぎに乗り、そのまま東京駅で解散です。1 つ文句を言うなら人身事故でいくつかの路線が止まって、新幹線の遅延と帰るのがめんどくさくなったことですかね。家では山登りのせいで足が痛かったです。とても充実した 3 日間でした。



【写真：名古屋駅の新幹線ホーム】

〈参考資料〉

輪中の郷の展示

<https://www.homemate.co.jp/town/pr-aichi/nagoya-city/>

<https://www.city.nagoya.jp/shicho/page/>

<https://suido-ishizue.jp/daichi/part2/03/06.html>

Nagoya-info.jp

mapple.net

第三章

自然豊かな東京「奥多摩」

(2024 年 12 月 17 日)



1. 奥多摩町 概要

文責：切手 悠介

奥多摩町は、東京都の多摩地域北西部に位置し、西多摩郡に属する町で、多摩地域に3つある町のひとつである。町の面積は225.53 km²で、総人口は4276人で、人口密度は19人/km²である。面積は東京都の市区町村の中で最も広い。青梅市への通勤率は16.4%である。

奥多摩町の中心駅である奥多摩駅の近くには東京都奥多摩ビジターセンターがあり、そこでは秩父多摩甲斐国立公園にある観光地の説明や水資源の大切さについての説明（東京都水道局）、奥多摩での季節ごとの観光案内について書かれたパンフレットがある。多摩川を堰き止めた小河内ダムによって造られた奥多摩湖は、山梨県と東京都をまたいでおり、そこから見える景観などから、ダム湖百選に選ばれている。また、その付近にも観光地がある。水と緑のふれあい館では、奥多摩湖の源泉となる奥多摩の森を守る必要性についての実体験ができる展示や、奥多摩湖の下に眠る鶴の湯温泉についての展示がある（東京都水道局）。また、奥多摩湖には2つ浮き橋があるが、中でも有名な麦山の浮き橋は、そこから見える景色が綺麗である。小河内ダムを下ると、奥多摩駅近くに氷川溪谷が見られる。そこでは秋の紅葉が見られ、撮影スポットとなっている。



【写真：奥多摩駅(左)／奥多摩ビジターセンター(右)】



【写真：小河内ダム(左)／奥多摩湖(右上)／東京都水道局の施設「ふれあい館」(右下)】



【写真：奥多摩湖の浮き橋(左)／浮き橋からの景色(右上)／氷川溪谷(右下)】

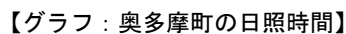
秋多摩国立公園バノヤマ系

三ツ山 527.5
大森山 1766.0
御前山 1406.0
御嶽山 929.0
向ふ野瀬 526.5
ペン石山 1428.9
雲ノ山 1736.0
雲取山 2017.7
白雲山 1716.9
天白山 1678.0
地蔵山 756.0
湯氷山 738.0
岩崎石山 793.3
川崎山 1363.7

M
—2000
—1500
—1000
—500

環境庁
東京都

なる日もある。仙台市や酒田市などの東北地方沿岸部よりも冷え込みは厳しい。グラフ 1 は月ごとの平均最低気温と平均最高気温の推移で、グラフ 2 は月ごとの平均降雨量の推移で、グラフ 3 は月ごとの平均日照時間の推移である。



2. 青梅線 概要

文責：塚崎 瑛登

青梅線は1894年11月19日に開業した歴史ある路線です。今年で開業130年を迎えました。25個の駅を有し、青梅駅ー奥多摩駅間には「東京アドベンチャーライン」という愛称が付けられています。また、青梅線は青梅駅で系統分離されているため基本的に青梅線の終点駅である奥多摩駅から青梅駅より先の駅まで運行する列車は存在しません。しかし青梅駅～立川駅間の青梅線は中央線と相互直通運転をしているため、青梅駅からであれば乗り換えなしで新宿駅や東京駅に行くことが可能です。

僕は今回、グリーン車を利用しました。中央線のグリーン車は2025年のダイヤ改正から運用されるのだがそれまではお試し期間として追加料金なしで乗ることができる。また、先述の通り一部の中央線の列車は青梅駅まで乗り入れるのでグリーン車に乗れば、青梅駅ま



【写真：青梅駅の駅名標】



【写真：青梅線の終点、奥多摩駅】



【写真：青梅線は中央線と同じ車両(左)／押しボタン式のドア(中)／グリーン車(右)】



【写真：御嶽駅の駅名標】

駅と川井駅という名前の似た駅で紛らわしい。さらに青梅線内に「軍畑駅」という駅も存在し、これは「いくさばた」と読みます。初見ではまず読めません。ここは青梅市にある無人駅です。室町時代にこの地で北条氏と三田氏によって辛垣城の戦いが起き、このことから「軍畑」という地名が付けられました。

でグリーン車の快適さを享受できます。中央線のグリーン車は他の路線のグリーン車に負けないほど快適でした。また、個人的に青梅線の駅名は難読漢字が多いなと感じました。例えば御嶽駅。「御嶽」は御嶽山の「御嶽」なので、「おんたけ」と読みたくなりますが、実際には「みたけ」とよびます。この駅は青梅市最西端の駅で登山目的の利用客が多いです。御嶽の隣の駅も沢井

3. カルスト地形とその周辺工場

文責：上野 開都

僕たちは、自然を堪能できる奥多摩町に行った。奥多摩はこんなに栄えているのかと驚いたが、今回は奥多摩が栄えたきっかけのセメント工業について説明する。

①歴史ー奥多摩町の駅である奥多摩駅で降りるとセメント工場がたくさん並んでいた。昔、奥多摩は鉄道も道も整備されていなかったが、1937年に浅野セメント株式会社が奥多摩に石灰岩があることを発見し、奥多摩は栄えていった。これを機に奥多摩に鉄道が開通され、取れた石灰岩が運



【写真：セメント工場】

べるようになった。1950年代には産業が発展していき、生産量は増大していった。こうして今まで引き継がれ、100年の歴史があるのだ。奥多摩が栄えた裏側には、産業の発展が鍵となっているのだ。

②カルスト地形ーカルスト地形とは、石灰岩のような大地が雨水などに溶食された地形である。奥多摩周辺はカルスト地形で他とは違う地形が見られる。奥多摩町の隣には日原村があり、鍾乳洞に行ったが、石灰岩が溶けた岩を見ることができ、セメントが発達



する理由がよくわかった。このカルスト地形があるからセメント工場が発達するのだと痛感し、左の写真より、今もセメント工場をしていることがわかった。



【写真：工場の近くに積まれた石灰石(左)／石灰石の標本(右)】

4. 日原鍾乳洞

文責： 薛 文森

日原鍾乳洞は、日原川の支流である小川谷沿いの、石灰岩が高くせまった峡谷にあります。現在一般公開されている部分は、東西 200m 余りの旧洞と高さ 30m 余りの新洞です。旧洞内には、流水によって形成されたと見られるへこみのある岩石段丘がよく残っています。また、石灰岩にはっきりとした節理や断層が随所に確認されます。

「世紀の大断層」と呼ばれる断層は、洞壁に見事な鏡肌状の断層面が露出しており、「賽の河原の大広間」の天井には、南北にはほぼ毎直の支向傾斜した層が混交できます。

「大広間」は、はじめはこれらの新層に伴って形成され、その後地下水が落まってできた地底湖の跡と考えられます。「賽の河原」と呼ばれる小高い丘は、天井から崩落した大小の海塊が積もってできたものです。この道乳洞は、断層による割れ目に沿って混下水が流れ、その浸食とともに落食が進展して形成されたと考えられます。

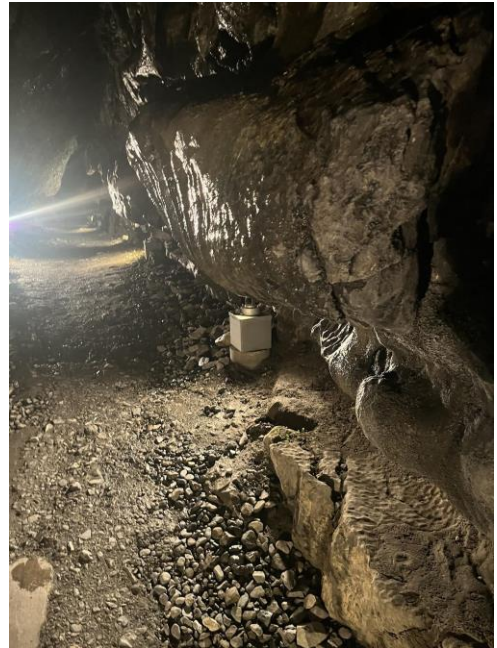
奥多摩駅からバスで 30 分ほどでやって来たのは山奥の奥、雲取山からわずか 10km の地点。右手に見える小川溪谷と左手にいらっしやる高所恐怖症の元野球部顧問も気にな



【写真：石灰岩の崖(上／下)】

りますが、先方の高いカルスト山が岩を剥き出しにしていることにまず目を引かれました。カルスト地形あるある：険しい山と洞窟。

さて、受付を終えてそばの小川の傍から洞窟内に入っていきます。高さは 1.7m 程度で低い所は 1.5m。傍の岩から所々湧水も見られます。そのため、内部の地面は岩場で歩きづらく、常にぬかるんでいました。また気温は年中通して 11 度前後です。地獄谷：名前の通りの急な横洞です。血の池地獄、三途の川など破壊力のあるネーミングばかり揃っています。(因みに行方不明事件が起こっていますのでご注意)



【写真：地獄谷の入口(左)／地獄谷のようす(右)】

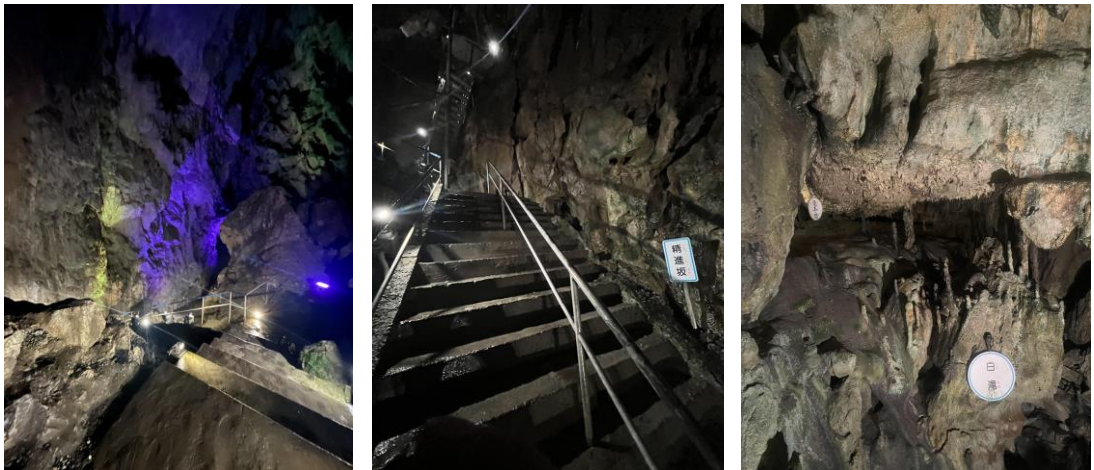


【写真：ライトアップされた死出の山】

メインスポット：死出の山。とても大きな洞窟であり、レインボーにライトアップされています。さいの河原のような場所や祠もあるため 1 人の時は心細いかもしれませんが、間違いなく SNS 映えするのでお勧めです。

その後新洞に入っていきますが、階段がとても長くて疲れました。傾斜が急であるのに加え、ぬかるんでいたので、うっかり落ちて骨折でもしないように気をつ

けました。今でも精進坂とかふざけた名前だと思っています。天然の鍾乳石は非常に珍しかったです。鍾乳石は 20cm 級ともなると 1400 年ほどの年月が必要になります。一方、



【写真：死出の山(左)／新洞の長い階段(中)／石筍(右)】

石筍は20cm級となると2800年ほどかかるため天然の鍾乳石を見る目的で訪れるお客も多い様です。後は帰りも階段で洞窟からでた時は普通に疲れましたので体力も必要となってきます。場所が遠く、足元には気を遣う必要があるが、鍾乳洞や鍾乳石などの珍しいものが見られる。また神秘感もあり、夏に訪れるとより良い体験ができる。

5. 小河内ダム

文責：水谷 颯

①**概要**—小河内ダムは、東京都奥多摩町（都心から約65km）にあつて、標高530mに位置している。多摩川上流域を水源とする集水域は、東京都奥多摩町、山梨県丹波山村、小菅村及び甲州市の4市町村にまたがり、面積は約263km²（羽村堰上流流域面積の54%）になる。貯えられた水は、ダム直下の多摩川第1発電所で発電に使用後、多摩川に放流され、小作取水堰、（下流約34km）と羽村取水堰（下流約36km）で水道原水として取水される。原水は、自然流下により村山・山口貯水池、玉川上水路などを経て、東村山・境の各浄水場へ、導水ポンプにより小作浄水場へ送られる。

②**歴史**—大正の終わり頃、東京市（現東京都）は首都東京の人口が増え、水の需要が急激に増加すると予測したため、多摩川上流部にダムを造ることを決定し、9つの候補地から現在の場所が選定された。1938年11月に総合起工式が行われ、1940年3月に仮排水路工事が完了した。しかし太平洋戦争によって工事が中止され、1948年に工事が再開された。1953年3月にダムコンクリートの打ち込みが開始された。小河内ダムには1675680m³のコンクリートが使われていて、東京ドーム1.3杯分に相当する量となる。コンクリートのほとんどは地元で生産された。また、コンクリートを作るための資材を運んだりダムが満水になったときに水没する橋やトンネルの付け替え工事も行われ、現在の奥多摩駅から約7kmの水根駅まで専用鉄道が敷設された。1957年6月に水を貯め始め、11月

にダムが完成した。また、貯水し始めた当初水需要量の増加とともに降雨に恵まれなかったため、完成してから2年後の1959年に初めて満水となった。

③構造－形式：非越流直線重力式コンクリートダム。ダムの高さ：149m。ダム頂部の長さ：353m。ダム頂部の標高：530m。総貯水量：1億8540万 m^3 。最大水深：142.5m。

④水道水源林－東京都の水道水源林は多摩川上流域の東西約31km、南北約20kmに及び、面積は東京都区部の約35%に当たる21630haとなっている。

⑤その他－我が国屈指の大ダムで、世界最大の水道専用ダムといわれることが多い。しかし、水道のほか、発電にも利用されている。いずれにしても「都民の水がめ」として大きな役割を果たしている。



【写真：小河内ダムと奥多摩湖(左／右)】

6. 水と緑のふれあい館

文責：五月女 絃大

「水と緑のふれあい館」は、地域の水資源の大切さを学べる場であり、特に多摩川水系やその支流である浅川流域に焦点を当てている。館内では、自然環境や水の循環に関する展示が行われ、水質保全の重要性についても学ぶことができる。

まず東京の貯水技術について学んだ。水は生活に欠かせない重要な資源であり、その供給の安定性は人々の生活基盤を支えている。特に、乾季や水不足の時期に備えて水を貯める「貯水」の技術は、人々が長い間工夫してきた重要な方法である。1957年に完成した小河内ダムは、江戸・東京の上水道の命脈を支える重要な役割を果たしてきた。多摩川流域におけるこのダムの建設は、東京都心への水道水供給の安定化に貢献し、今でもその重要性は変わらない。江戸時代、東京では池や沼を利用した水の貯水が行われていた。例えば、神田上水では池をせき止めて水を蓄えることで、江戸の人々に水を供給していた。このように、自然の水源地を上手に活用し、効率的な貯水の方法を模索していたのである。明治時代に入り、東京の人口が急増し、それに伴って水道の需要が一気に

高まった。このため、安定した水供給を実現するために人工の貯水池が整備されるようになった。1898年には玉川上水の整備が進み、その後、浄水場の設置が行われ、水の安定供給が可能になった。川から引いた水をせき止めることにより、安定的に水を供給する体制が整ったのである。そのような歴史的背景の中で、小河内ダムのような大型の貯水施設が生まれ、今日の水道供給に欠かせない役割を果たしている。

次にモノの交流について学んだ。黒曜石の利用やヒスイが主に書かれてあった。黒曜石は古代の人々にとって非常に重要な資源であり、特に石器製作に使われた。加工が容易で鋭利な刃物を作るのに適していたため、ナイフや矢じりなどに使用された。奥多摩町では黒曜石を採取することはできないが、長野県の和田峠や神奈川県箱根畑宿、さらには神津島などから運ばれてきたことが確認されている。このことは、異なる地域間で物資のやり取りが行われていたことを示しており、当時の人々の交流と交易があった証拠である。ヒスイは縄文時代において特別な意味を持つ貴重な石であり、新潟県糸魚川地域でのみ採取可能であった。その硬さから加工が難しく、非常に貴重とされていた。ヒスイは特に奥多摩地域で、地位の高い人物を象徴するために用いられていたと考えられている。また、ヒスイは長い距離を移動して他の地域に運ばれており、地域間での文化的な交流を象徴している。水と緑のふれあい館で学んだことを通じて、黒曜石やヒスイなどの素材を通じて行われた物々交換と文化の交流について深く理解することができた。当時の人々が活発に交易を行っていたことがうかがえる。最後に奥多摩に残る信仰のあとについて学んだ。信仰の対象物はその時代を生きた人々の生活を知る手掛かりになる。町内に残るたくさんの板碑は当時の経済力や高い精神文化が伺える。

水と緑のふれあい館では体験型の学習もあり、例えばこれはボールを転がして緑のダムとしての役割をどれくらい果たせるかが学べる。動画での解説もあり大変わかりやすかった。

途中トラブルはありながらも無事巡検を終えられてまず何より良かった。奥多摩が東京の水に以下に密接かということを力強い自然のもとで深く知ることができた。



【写真：体験型の展示】

7. 浮橋（麦山浮橋）

文責：新井 友翔

通称ドラム缶橋として知られるこの橋は実際に建設当時はドラム缶で出来ていたためこの愛称が付けられた。この橋はダム建設に伴い湖底に水没した対岸との交通路の代替として設置された。現在では、ポリエチレン・発泡スチロール製の浮子が使用されて

いる。橋を実際に渡った感想としては落ちるほどではないがかなり揺れて不安定であった。また、水面との距離が近いと落ちるかもというスリルもあった。部員が走ったり飛び跳ねたりするとグラグラと揺れ落ちるのでは！？と思うこともあった。そして陸と橋の接続部がしっかりしておらず押されたら落ちてしまいそうであった。橋の中央部からは周囲が良く見え素晴らしい景色が広がっていた。



【写真：麦山浮橋(左／右)】

8. 巡検旅行記

奥多摩巡検 文責：鈴木 涼太

12月17日、城北学園地理部で奥多摩へ行き、巡検を行った。その日は朝に中央線がトラブルで止まってしまい、半分以上の部員が集合時間に間に合わずに途中から合流する形となった。そのため、鍾乳洞などには行けなかったが、合流してから行った奥多摩湖や水と緑のふれあい館などで貴重な体験ができた。その1日について振り返る。

まず先程言及した中央線のトラブルにより、奥多摩駅に到着するのが遅れ、午前10時過ぎに奥多摩駅に到着した。もう顧問の先生と先に到着していた部員は貸切バスに乗り、徒歩ではいけない場所へ向かっていたため、正午過ぎに合流するまでの時間をどこかで



【写真：氷川溪谷】

潰そうとなり、そこでまず氷川溪谷へ行った。氷川溪谷にはほとんど人が居なかった。そこで水切りをして自然を満喫した。

次に奥多摩駅の近くにある弁当屋で弁当を買い食事をとった。その後先にバスに乗っていた部員と合流してバスに乗り、水と緑のふれあい館に行った。そこではダムのおもしろさがわかる展示などを見た後に実際にダムを見た。

その後に奥多摩湖へ行き、部員で奥多摩湖を渡りその後に記念撮影をした。奥多摩の壮大な自然に触れられ、貴重な体験ができた巡検だった。

奥多摩巡検旅行記 文責：橋本 弓彦

今回の巡検地は東京都西多摩郡奥多摩町。町の9割以上が山林を占めるということもあり、いつも過ごしている「東京都」とは違った様子が青梅線に乗っている途中から感じられた。

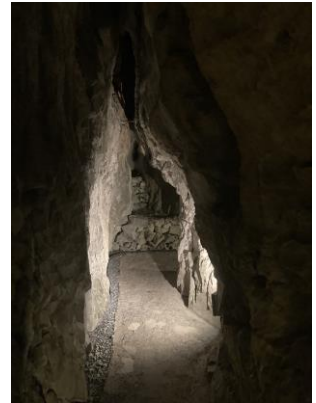
巡検当日、朝の JR 中央線の運転見合わせによって部員全員が完全に集合出来ないまま 10 時頃西東京バスから配車されたバスで最初の見学地「日原鍾乳洞」に向かった。道中、V 字谷など教科書通りの地形が見られ、自然の偉大さに驚嘆した。石灰岩が地下水などで侵食されて形成された鍾乳洞も、入り口からは想像できないほど入り組んでいて異様さも感じられた。しかし、洞窟内は暗く水も滴っているためかなり寒かったり、通路は狭く低い箇所が多いため頭をぶつけてしまったりするため注意も必要な場所である。

13 時頃、奥多摩駅構内 2 階に併設する喫茶店でカツカレー大盛りを注文。食べ終わり、JR 中央線の影響を受けた部員たちとも合流した後、バスで「奥多摩水と緑のふれあい館」と「奥多摩湖・小河内ダム」を訪問。都民にとって欠かせない水瓶である「奥多摩湖・小河内ダム」の背景や実際に建設している映像などを「奥多摩水と緑のふれあい館」で見た上で、歩いてすぐ到着する壮大な湖・ダムを眺めることができた。

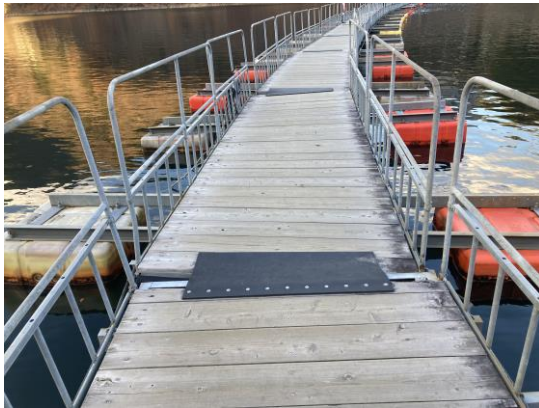
最後にバスで「麦山の浮橋」に向かった。小河内ダム建設の資材などを運ぶ際に使われたこの橋は「ドラム缶浮橋」とも呼ばれ、その名の通り当時はドラム缶をつけた橋を川面に浮かばせていたということである。今はドラム缶ではないものの、本当に川面に橋が浮かんでいて渡る際に結構揺れが起こる程であった。おそらく川に落ちることはないだろうが、ここもまた注意が必要な場所であった。



【写真：奥多摩湖の浮橋】



【写真：日原鍾乳洞(上／下)】



【写真：奥多摩湖と浮橋のようす（4枚）】

旅行記 文責：遠藤 壮一郎

今回は奥多摩駅集合となった。東京駅から奥多摩駅までは2時間の距離である。そのためせっかくなので期間限定で、無料で乗れる中央線グリーン車に乗ってみようと思い、グリーン車がついている電車を東京駅で30分待って乗った。乗車して、グリーン車はやっぱり快適だなと思っていた矢先、不幸な出来事が起こった。中央線が遅延するという事態が発生した。そのため奥多摩駅に到着するのに1時間半遅れるという1番避けたかったことが起きてしまった。それゆえに午前中に行く予定で1番楽しみにしていた日原鍾乳洞に行けなくなってしまった。これはしょうがないことだが本当に行きたかった。グリーン車に乗るために30分も待つべきではなかったと思った。

11時半近くに奥多摩駅に着いたが鍾乳洞に行っていた人たちが奥多摩駅に帰ってくるのに2時間あるため自分と同様に遅れて奥多摩駅に到着していた水谷君と先に昼食をとった。奥多摩駅の2階にあるお店に入りカツカレーを食べた。中辛なこともあり少し辛かったがとても美味しかった。水谷君はカツカレー大盛りを頼んだのだが、わずかプラス300円で僕が食べた普通盛りの2倍ぐらいあったのでお得だと感じた。けれども少し量が多そうだった。



【写真：小河内ダムから見た景色】

その後時間が余ったため多摩川に降りて水遊びをした。12月なだけあって水の温度がとても低いためすぐにやめた。

午後の活動では最初に小河内ダムとダムの近くにある水と緑のふれあい館に行った。ダムは日の光が水面で反射してとても綺麗だった。写真をたくさん撮っていたため、あまり水と緑のふれあい館の見学に時間を使えなくな

った。計画的行動が大切だなとこの時も思った。けれども、二学期の授業で地理の先生が言っていたダムカードを水と緑のふれあい館で貰えたのでよかった。

最後に麦山浮橋に行った。この橋は浮き橋であるがゆえに、最初は歩くたびに橋が揺れ、また友達に揺らされて怖かったが、だんだん慣れていき最後は揺らす側になりとても楽しかった。

今回は活動時間が午後の2時から4時の2時間と少なかったが、行った3ヶ所だけでも楽しむことができた。

〈参考資料〉

日原鍾乳洞の説明の看板

東京都水道局のパンフレット

<https://news.mynavi.jp/article/nandoku-eki-89/2#:~:>



第四章

横浜ベイエリアの考察 (2025 年 2 月 23 日)



1. 横浜ランドマークタワー

文責：水谷 颯

横浜ランドマークタワーは、神奈川県横浜市西区みなとみらいの超高層複合ビルである。「横浜みなとみらい 21」地区の開発を主導した三菱地所が建築・設計・保有していて、1990年に着工し、1993年に開業した。高さは296.33mで、超高層ビルとしては2023年時点で、麻布台ヒルズ森JPタワー（325.2m）、に所在するあべのハルカス（300.0m）に次いで日本で3番目に高い。また、構造物としては東京スカイツリー（634.0m）、東京タワー（333.0m）、麻布台ヒルズ森JPタワー、あべのハルカス、明石海峡大橋（298.3m）に次ぐ日本で6番目の高さである。横浜ランドマークタワーはみなとみらい地区の25街区に所在し、横浜市内初の本格的な動く歩道（元々は横浜博覧会の施設）で桜木町駅方面と接続、地下3階・地上70階・塔屋3階のタワー棟と、地下4階・地上5階のプラザ棟からなっている。建築面積は23,208㎡、延床面積は392,791㎡で、東京都豊島区のサンシャインシティ（585,895㎡）、愛知県名古屋市中村区のJRセントラルタワーズ（416,565㎡）に次ぐ広さとなっている。この地にはかつて三菱重工業横浜造船所があり、横浜博覧会開催期間中には桜木町ゲートが存在していた。特徴的な建物のデザインはアメリカの建築家、ヒュー・スタビンスによるものである。

スタビンスによる基本設計に基づき、三菱地所が実施設計を行い、みなとみらい地区における民間第1号プロジェクトとして建設された。当初の計画では、隣接するクイーンズスクエア横浜との間の北側の一角に、丸みを帯びた頭上から見て楕円形のオフィス棟をもう一棟建設（横に伸びた窓など外観デザインは一部共通）する予定であったが、計画は凍結されたままになっている。また、当初は高さ300mのビルとして計画されていたが、建設地が東京国際空港の標準出発経路（SID）と重なり高度制限が発生するため、最終的な高さは296.3mに決定され、日本初のスーパートール（高さ300m以上）が実現しなかった経緯がある。69階の展望フロア「スカイガーデン」（地上273m）まで、地上（2階）から最大分速約750m（時速換算で45km/h、上りと下りは同速度）の直通エレベーター（三菱電機製）で結ばれている。なお、このエレベーターは2020年にリニューアルされた。これは、2004年に台北101のエレベーター（最大分速約1,010m）に記録を破



【写真：横浜ランドマークタワー外観】

られるまでは世界最速で、ギネス世界記録にも掲載されていた。なお、台北 101 の記録は上りのみであり、下りは現在でも世界最速である。

また、展望台がさらに高所にある東京スカイツリー・あべのハルカスが開業した現在でも、日本最速のエレベーターである。さらに、ビル全体の制振装置として、上層部にコンピューター制御で揺れを抑える巨大な振り子を備えており、ビル自体も 4 本を柱とした耐震性の高い構造をとっているほか、災害時などに使用するための緊急用のヘリポートも屋上に備えている。2004 年 2 月には、ランドマークタワーに隣接するクイーンズスクエア横浜の地下に横浜高速鉄道みなとみらい線のみなとみらい駅が開業した。また、2008 年には現代美術の国際展「横浜トリエンナーレ 2008」の会場に指定され、ランドマークプラザに作品の一部が展示された。竣工以来 20 年近く「日本一高いビル」であったが、2012 年 8 月に当時建設中だった「あべのハルカス」（大阪市阿倍野区）が高さ 300m に到達したことによって日本一の座を奪われ、2023 年 6 月には東京都港区に建設されていた高さ 325.2m の「麻布台ヒルズ森 JP タワー」が竣工したことによって東日本で最も高いビルの座も奪われた。



【写真：横浜ランドマークタワー展望台からの景観（2 枚）】

左の写真は北西方向を望んだ写真で、左奥には富士山が見える。右の写真は南東方向を望んだ写真で、右下には桜木町駅、左奥には赤レンガ倉庫が見える。

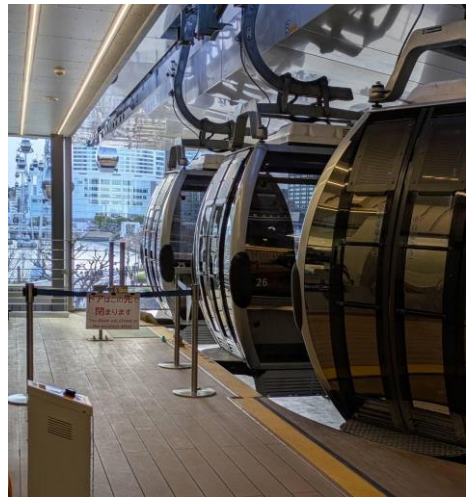
2. 横浜エアキャビン

文責： 薛 文森

①概要—横浜エアキャビンは、2021 年 4 月に誕生した日本初の都市型循環式ロープウェイシステムです。 JR 桜木町駅前から横浜ワールドポーターズ前の運河パーク駅まで、約 630 メートルの空中ルートを片道わずか 5 分で結んでいます。 全 36 台のゴンドラはそれぞれ最大 8 名まで乗車可能です。 冷房設備とバリアフリー設計を備えています。

②感想－グループごとに乗れるので周りを気にしなくて良かった。真下の自動車道やみなとみらいの景観をゆっくり楽しむことが出来、移動手段よりアトラクション的な乗り物でした。ゴンドラは最高 40m の高さまで上がり、みなとみらい 21 の景色を角度を変えて楽しむことができた。また夜景が綺麗だそうですので、夕べに乗るとさらに良いかもしれません。

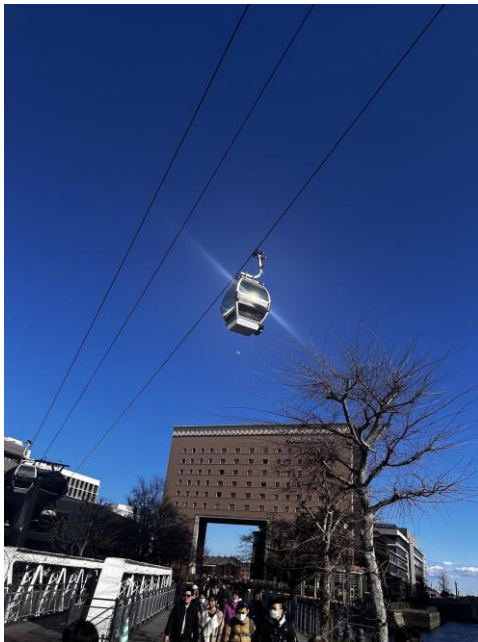
③知見－ゴンドラを外から見ると黒く中が見えづらい構造になっていますが、中に入ると 4 面透明のガラス張りです。ゴンドラの下に最新式のバッテリーを搭載していて、乗客の乗り降りの最中にバッテリーの充電も行なっているようです。充電されたバッテリーは、冷房システムや各種安全監視システム、フルカラーLED による演出照明などに利用され、空の旅をより快適なものにしてくれます。また自動で風速を検知して一時的にゴンドラを止めるようなシステムもあります。



【写真：エアキャビン乗り場】



【写真：エアキャビンのようす】

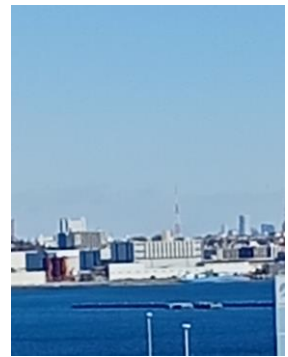
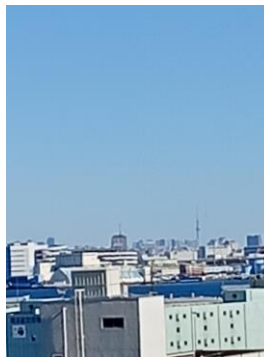


【写真：上空を行くエアキャビン(左)／エアキャビンからの眺め】

3. 港の見える丘公園

文責：切手 悠介

港の見える丘公園の展望台は、横浜港を見下ろすことのできる、高い丘の上にある公園である。そこは、横浜港、横浜ベイブリッジ、横浜マリンタワー、東京スカイツリー、東京タワーなどをベンチに座りながら望むことができる、絶好のビュースポットである。横浜でも有数のバラの名所である、イングリッシュローズの庭は、一年草と宿寝草の混植のガーデンとなり、四季を通していろいろなバラや草花が咲いている。また、そこには多くの置物がある。中でも一際目立つ置物は、展望台の近くにあり、バラの帽子を被っている。名前はガーデンペアである。また、その置物がある場所には、2002 年 FIFA ワールドカップ開催記念と記された看板もある。また、ここには昔、フランスの領事館もあり、その遺構も残されている。しかし、その当時使われていた風車などは関東大震災で消失してしまったため、現在はモニュメントのみが残されている。さらに、港の見える丘公園の展望台の近くには歌碑がある。訳すと、「あなたと二人で来た丘は、港が見える丘。色あせた桜唯一つ、淋しく咲いていた。船の汽笛咽び泣けば、あなたと私に降りかかる。春の午後でした。」となり、作詞・作曲は東辰三、歌は平野愛子である。この歌碑のそばには、歌碑設置の由来について書かれた看板がある。この看板は、歌が作られてから 52 年後に作られた看板である。また、港の見える丘公園から少し外れたところには、大佛次郎記念館もある。



【写真：港の見える丘公園からの景色(5枚)】



【写真：園内のようなす(7枚)】

4. 海上保安庁資料館横浜館

文責：石根 優希

私が今から書くのは、赤レンガ倉庫…の近くにある海上保安庁資料館横浜館である。
 ここは 2001 年 12 月 22 日に鹿児島県奄美大島沖で発生した 「北朝鮮工作船事件」 の

時、中国漁船に 偽装した北朝鮮の工作船を展示しているところである。少し本題から逸れるが、ここは、第3管区 海上保安本部横浜防災基地 という場所にあるため、横には画像①の「あきつしま」と言われる、海上保安庁のヘリコプター2機搭載型巡視船が置かれていた。全長約 150.0m、総トン数約 6,500 トンと、これは海上保安庁最大級の巡視船である。さて、話を戻して 海上保安庁資料館横浜館 には、前述した通り、北朝鮮の工作船が展示してある。この工作船は、海上保安庁の巡視船による停船命令や船体射撃を無視して逃走。接近した巡視船に対し、画像②③のような自動小銃や ロケットランチャーによる攻撃を始めたため、巡視船「あまみ」「いなさ」が正当防衛射撃を実施し 応戦した。その痕跡が画像④である。その後、工作船は画像⑤で自爆とみられる爆発を起こして 沈没した。この銃撃戦で巡視船「あまみ」の海上保安官3人が負傷。工作船の乗組員10人（推定）が死亡した。ここは施設としては少し小さいかもしれないが入場料も無料で非常に面白かった。ここには載せていない展示物もあるので、ぜひ自分の目でも見てほしい。



【画像①】



【画像②】



【画像③】



【画像④】



【画像⑤】

5. 横浜中華街

文責：上野 開都

私は今回の横浜の巡検で横浜中華街に行った。横浜中華街はみなとみらい線元町中華街駅の目の前にあり、近くには山下公園がある。実際に行ってみると連休というのもあり、たくさんの人がいて日本人の若者が多かった。店は崎陽軒などのチェーン店もあつ

たが、大体は中国人が営んでいる店だった。私は横浜中華街で食べることはできなかったが、カフェで休むことができた。横浜中華街は横浜港から伝わった中国料理の中華街である。そのため、日本人経営の店ではなく中国人が経営している店が多いのだ。

横浜中華街の店のメニューを見ると小籠包や肉まん、チャーハンなど同じようなものだったがそれには理由がある。横浜港が開港した時に世界各地から人々が来日したが大



【写真：中華街の入口にある門(左)／観光客で混雑する中華街(右)】

勢が中国南部の広東の人々だった。広東は海外へ人々を送り出していたため、「華僑のふるさと」と呼ばれた。広東の人々は世界各地で集団的な営みをしていてチャイナタウンと呼ばれている。そのチャイナタウンの日本で代表的なところが横浜中華街である。そのため、今でも中華街は広東料理が多いのだ。広東は中国の四大中華料理の一つとも言われ、横浜中華街は横浜を代表する観光スポットになっているのだ。

6. 横浜巡検 旅行記

港湾班 文責：遠藤 壮一郎

今回は前回の奥多摩巡検の反省を活かし、集合時間である9時の10分前には集合場所の横浜駅に着けるようにと思い家を出た。電車の遅延も無く、無事に8時50分には横浜駅に着くことができた。そこには中一が4人ほどいてほとんどいない高一に比べてとても優秀だと感じた。班員全員集まったので最初は横浜ランドマークタワーへ向かおうと思った。しかし10時からしか空いておらず先に横浜みなと博物館へと思ったがこちらも10時からだった。

というわけで、最後に行くはずだった赤レンガ倉庫に行くことになった。時間の下調べをしていないとこうなるのかと勉強になった。今度は大丈夫だよなと思いながら赤レンガ倉庫に着いたところ、ものズゴイ人で賑わっていた。苺の食べ物や雑貨などを売っているストロベリーフェスティバルをやっていたらしい。いちごでこんなに人が集まるのかと思いながら赤レンガ倉庫の周りを歩いた。元々赤レンガ倉庫で何かする予定ではなかったので周りを見るだけで十分だった。ちなみに赤レンガ倉庫は早いところで 10 時からのオープンなのにも関わらず 9 時 40 分であの混み具合は尋常じゃなかった。苺とのコラボ商品を買うのに 1000 人を超える人が長蛇の列を作っていた。

色々あって 10 時になったので横浜ランドマークタワーに戻って上からの横浜の景色を見ることになった。69 階の展望フロアからの景色は壮観だった。横浜の街を一望することができた。下を覗くと見える日本丸も、地上から見ると大きいはずなのに上から見ると小さく見えた。百聞は一見に如かずというのでぜひ見てみてほしい。今年の末で営業一時休止するらしいのでお早めに行っていただきたい。ついでに横浜ランドマークタワーのエレベーターはエレベーター界日本最速で一分間に 750m も進むらしい。耳が気圧の変化に耐えられなくて痛かった。

次の見学地に行こうとしたがランドマークタワー内に美味しそうな中華料理屋を発見。まだ 11 時だったが先にお昼にすることにした。小籠包とチャーハンのセットをいただいたが、これが空腹だった自分には本当に美味しく感じられた。

横浜って感じの昼食をいただいたところで午後の活動スタート。午後、最初に向かったところは横浜みなと博物館である。ここでは横浜港の歴史を 7 つの時代に分けて振り返ることができる。個人的に面白かったのは「みなとカプセル」という帆船日本丸の歴史や総帆展帆を迫力ある大型映像で体験できる VR シアターである。例えば航海している映像が流れると自分が船の上から 360 度海を見ているような感覚を得ることができるものである。初めての体験ができたところで次に向かうのは氷川丸である。この大型客船で私たちが感動したのはソファのフカフカさ。ここまでふかふかなソファはないため、みな驚いていた。また、船内部の通路の天井が低いことや客室内のベッドが小さいことから当時の人は背が低かったこともうかがえた。

最後に向かったのは中華街である。何かここで食べ歩きでもしようと考えていたが人で溢れ返っていたためやめた。集合場所で待っていると新井君と鈴木君が同じ揚げ物を持ってやってきた。どうやら多すぎて食べきれなかったらしい。ひとつもらっていただくと美味しいのだが辛い。確かにこれは一袋に二つも入っているものを全部食べるのはきついなと思った。 班員全員集まったところで横浜駅に戻り解散となった。時間を調べていなかったことで行程表通りにはいかなかったが、行きたかった見学地には行くことができたのでよかった。



【写真：横浜ランドマークタワーから見た景色】



【写真：混雑していた中華街】



【写真：赤レンガ倉庫とイチゴのオブジェ】

産業班 文責：塚崎 瑛登

今回の横浜巡検は産業班と港湾班の2班に分かれ、それぞれがテーマごとに観光名所を回った。僕は、産業班の一員だったので、港湾班の人たちとは別行動であった。両班ともに9時に横浜駅に集合し、昼食を中華街で食べ、16時に横浜駅で解散した。

まず僕たちはみなとみらい線で元町・中華街駅に向かった。そこから歩いて「港の見える丘公園」を目指した。



【写真：マリンタワー(左)／氷川丸(右)】

そこからは横浜ベイブリッジやマリンタワーなどが見えたが横浜ランドマークタワーやよこはまコスモワールドの観覧車は見ることはできなかった。また、よく目をこらすと東京タワーと東京スカイツリーを見ることができた。

そこから山をおりて、山下公園に向かった。山下公園には客船という役目を終えた氷川丸が停泊しており中を見学することができた。氷川丸からは横浜市の中心部を眺めることができ、船内も豪華だった。そして昼食を挟み、午後は遅れて来た部員と合流して赤レンガ倉庫に寄り、カップヌードルミュージアムに行った。体験できるコーナーには行けなかったものの、カップヌードル誕生の歴史を知ることができた。

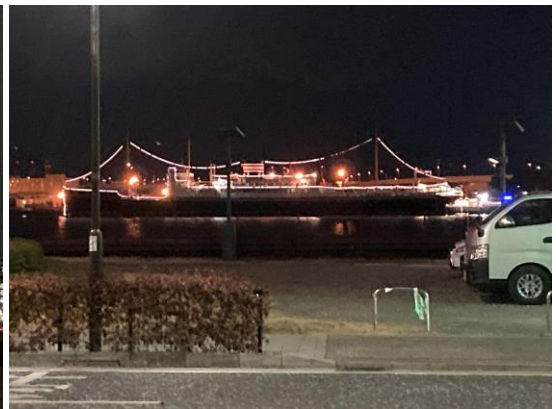
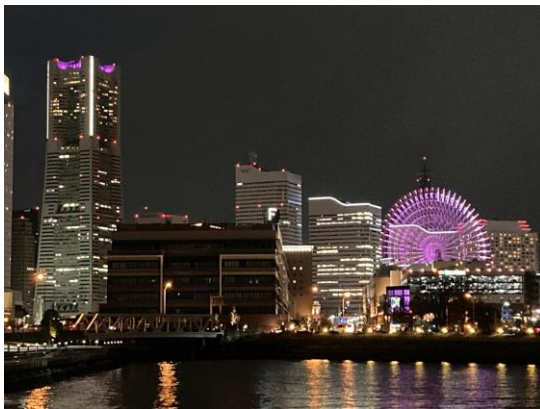


【写真：赤レンガ倉庫】

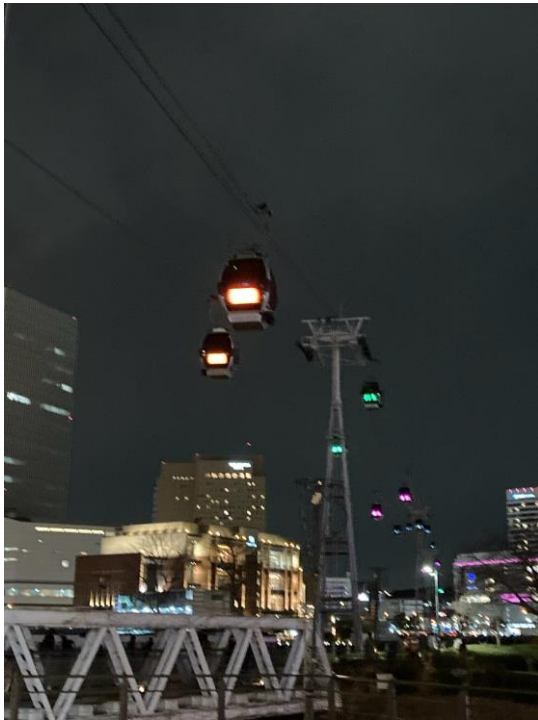
お金に余裕があった部員は、そこから 1000 円かかるヨコハマエアキャビンに乗って桜木町にある三菱みなとみらい技術館を目指した。ここを出る頃には集合時間が迫っていたので、日産ギャラリーには寄れず、急遽みなとみらい駅からみなとみらい線に乗って約 10 分遅れで横浜駅に到着した。巡検や合宿の最後の解散の時に使われる地理部代々の決まり文句、「家に帰るまでが巡検（合宿）です。」という言葉が横浜駅での解散の時に聞いて、多くの部員が帰っていった。

さて、横浜は港町としての側面の他に夜景が美しい都市としても知られています。

そこで僕は夜まで横浜に滞在することにし、夜の横浜を観察することにしました。18 時頃までには太陽が完全に沈み、横浜のシンボリック的存在であるヨコハマランドマークタワー、横浜ベイブリッジや赤レンガ倉庫などでライトアップがなされていました。とても良く写真を撮ることができたので、夜まで残った甲斐がありました。



【写真：ランドマークタワーとコスモワールドの観覧車(左)／夜の氷川丸(右)】



【写真：蛍のように光る AIR CABIN(左)／観覧車と日本丸(右)】

夜の横浜はとても幻想的である。

〈参考資料〉

横浜ランドマークタワースカイガーデン

<https://www.yokohama-landmark.jp/skygarden/>

HARE-TABI <https://hare-tabi.jp/>



第五章

小田原の地域性 (2025 年 6 月 8 日)



1. 小田原市 概要

文責：釘宮 諒

小田原市は周りを山・海・川に囲まれており、海の幸、山の幸に恵まれ、一年を通して温暖な気候のため過ごしやすい街である。また、小田原駅には小田急小田原線を含む6路線が乗り入れるので交通利便性がいい上に、昔ながらの商店街や駅周辺には大型の商業施設がまっている。また、治安もそこまで悪くなく、情報発信が盛んで月に1回届けられる広報誌を楽しみにしている小田原市民もいるんだとか。ここまで小田原市の魅力を書き、世間の評価はどうかというと住みたい街ランキングでは全国731位と、なんとも言えない順位だったのだが、一方坂の上にあるためか富裕層が多く富裕度の順位では小田原は全国173位となっていた。どこまでこの順位があてにできるかわからないが、小田原市の魅力を中心に書いていくつもりだったのが結果的に富裕層のほうが多いことの方にインパクトが強くなってしまい申し訳なく思う。行ってみた感じで言うと所々で傾斜があり、道も入り組んでいるため少し歩きにくかった印象を受けた。特に小田原城から海岸線付近に向かうまでかなり坂を降った。どうやら東側が段丘地形に、西側が早川低地になっていて僕らは東から西に渡ったために坂を下っていたようだ。また、話が変わるが小田原市付近ができた背景にはプレートの動きが大きく関わっているらしい。約1,700万年前、丹沢山地も伊豆半島も南の海でできた火山島であったが、フィリピン海プレートに乗って北へ移動し約500万～300万年前、関東山地の乗った北アメリカプレートあるいはユーラシアプレートに丹沢地塊を乗せたフィリピン海プレートが沈み込み、衝突した。約250万～60万年前、丹沢が付け加わった北アメリカプレートに伊豆地塊を乗せたフィリピン海プレートが沈み込み、その間の深くなった海に礫や砂や泥が堆積した。やがて伊豆地塊は衝突して伊豆半島となり、海に堆積した礫や砂は次第に隆起して足柄山地を作った。この時小田原付近も陸地になった。話を戻すが、私たちは小田原城の視察後、海岸線付近で昼食をとったのだが、海岸線付近では海鮮丼系の料理で溢れかえっており、どこも繁盛していた。



【写真：海鮮ビュッフェほうじょうにて漬け丼】

2. 小田原城

総論 文責：北村 優歩

まず、小田原城は、見えている方向にまっすぐ行くよりも、少し遠回りして行くことで小田原城に早く着けるような構造になっている。これにより、敵が城を見つけて、真っ直ぐ城に向かっても、なかなかつかないという自体を招き、敵を攪乱することができる。これは他にも「姫路城」や「江戸城」などにも使われている。次に、小田原城の塀には左の写真のような三角や四角の穴が空いていた。三角の穴は鉄砲を打つときに鉄砲玉を打つもので、四角の穴は弓矢を打つときに矢を打つものだと考えられる。これにより、敵に攻撃されずに敵を攻撃することができる。そして瓦には右の写真のような家紋がある。これは天皇家の家紋で、主に権力を示すために使用しており、小田原城が徳川家の城である事も意味していると考えられている。最後に、小田原城下町では練り物文化が盛んだったのですが、これは相模湾で豊富に獲れる新鮮な魚や水を手入れでき、さらに、水晒しなどの独自の技術を磨いたため、練り物文化が盛んになった。



【写真：小田原城の塀の様子(左)／瓦にあった家紋(右)】

城の造りについて 文責：小山内 銀志

小田原城は、1500年頃小田原に進出してきた伊勢宗瑞（北条早雲）が整備して今のようになった。そして大久保氏、稲葉氏と城主が引き継がれた。しかし、1923年（大正12年）に関東大震災で城のほとんどが全壊した。このように長く深い歴史がある小田原城の造りについて説明する。

まず、門の説明からだ。門は常盤木門、鉄門、銅門、馬出門がある。常盤木門は、本丸の正門で、重要な防御拠点だったので、他の門と比べると大きく堅固に造られている。そして、多聞櫓と渡櫓門があり、多聞櫓は武器庫として使われていた。鉄門は、本丸の北にあり、名前の由来は門扉を鉄で覆ったことだ。銅門は、三の丸から二の丸に入るた

めの馬屋曲輪から二の丸に通じる位置にあり、渡櫓門、内仕切門と土堀で周囲を囲む枳形門から成る。名前の由来は鉄門と同じで門扉を銅で覆ったことだ。馬出門は、二の丸正面に位置する門で、馬出門、内冠木門と土堀で周囲を囲む枳形門の構造を持つ。

次に、天守閣の説明をする。天守閣は、1960年（昭和35年）に総工費8千万円をかけて復興された。江戸時代に造られた宝永年間の再建の際に作られた模型や設計図を基に1960年（昭和35年）に江戸時代の姿として外観が復元され、内部は歴史資料の展示施設となっている。3重4階の天守櫓に付櫓、渡櫓などから成る複合式天守閣である。内部には、甲冑・刀剣・絵図・古文書など、小田原の歴史を伝える資料や、武家文化にかかわる資料などが展示されている。標高約60メートルの最上階からは相模湾が一望でき、良く晴れた日には房総半島まで見ることができる。小田原市では2006年（平成18年）に天守閣の高さを基準とした高度規制を行い、天守閣の高さを超える建物の建築を制限するという条例をだしたりしている。



【写真：常盤木門(左)／天守閣(右)】

報徳二宮神社 文責：渡部 翼

二宮神社は1894年（昭和27年）二宮尊徳の教えを慕う伊豆、三河、遠江、駿河、甲斐、相模の六カ国の報徳社の総意により、尊徳を御祭神として、誕生地小田原の小田原城二の丸の一角に建てられた。

位置としては小田原城本丸入口の真横にある坂を降り見えてくるプチ遊園地の隣にある。Google mapで調べると「報徳二宮神社」と書かれた柱が目印となっているが実際に行ってみると柱はなく代わりに鳥居と上記の柱に代わり板が置いてあった。鳥居をくぐり境内に入ると道が続いていて、小さな庭を通して本殿に辿り着けるのである。

報徳二宮神社のご利益は、学業成就、商売繁盛、災難厄除、出世財福、手や足腰など

の体の健康などがある。自分は成績向上を祈り五円玉を賽銭した。

二宮尊徳が祀られているため二宮尊徳像と二宮尊徳についての説明書などが境内にあった。静かで落ち着いた雰囲気だった。そして、小田原城の近くであることが関係しているのか外国人観光客が多い印象だった。もっというと外国人の方が現地人より多かった。



【写真：(左から)本丸最寄りの鳥居／二宮尊徳像／境内の道／もう一つの入口】

3. 小田原の海

文責：新井 友翔

高2の代は最後の巡検ということで感慨深かった。卒業までの行事も片手で数えられるほどになって来て悲しい。中2、中3は今ある時間を当たり前のものと思わずに毎日楽しく有意義に過ごして欲しいと思う。そんなことは置いといて他の部員がかまぼこを作ってる中、僕たちは小田原の海を堪能していた。小田原の海は相模湾に位置しており、小田原の海はお台場の海と比べてとても綺麗で水が澄んでいて。また、釣りをしてる人も多く見られ魚が生息できる環境であることが分かる。僕たちが巡見を行った日は天気恵まれているとは言えず、波も少し荒かったかのように思う。そんな中でも釣りをしている人がいて驚いた。小田原の漁港は魚の匂いかなり強く、船も多く停泊していた。一方で、多くの観光客もいた。そのため、初めに行こうとしていた海鮮丼屋は断念した。ただ外国人の数はぼぼいなかったように思う。せっかく日本に来て小田原をチョイスするのは外国の信長の野望ファンだけであろう。僕たちが行った海鮮丼屋は漁業飯しょくどうという所だが、人通りの多い通りからは少し外れていたが繁盛していた。僕はシラス丼アジフライ定食を頼んだ。どちらもとても絶品だったが、特にアジフライが人生で食べたもので一番美味しかった。ただ脂が乗っているだけでなく、魚の旨みも感じられてとても美味しかった。ここに行くためにまた小田原に行きたいと思える店だった。アジは小田原の名産なので釣り人もアジを釣ろうしてるのかと思うと彼らが可愛く見える。



【写真：小田原の海(左)／シラス丼定食(右)】

4. 小田原名物 蒲鉾

蒲鉾（かまぼこ）とは 文責：荒巻 裕司

蒲鉾とは水産練製品の一種である。白身の魚肉をすり碎いて、味をつけ、よく練ってから形を整え、蒸した加工食品だ。そのうえ、板蒲鉾1本あたり約7匹の魚が使用されているため、タンパク質が多い。蒲鉾は平安時代末期の記録に名があり、室町時代中期には焼き蒲鉾があったが、今のような蒸し蒲鉾は江戸時代末期につくられた。

蒲鉾の歴史・由来 文責：荒巻 裕司

蒲鉾は今から千年以上も昔から食べられている。すりつぶした魚肉を棒に巻いたり、鉾につけて焼いたりしたのが始まりであり、竹輪に近いものだった。この形が植物の蒲の穂に似ていたので、「がまのほ」と呼ばれていたが、いつしか変化して「かまぼこ」になったと伝えられている。かつて冷蔵庫のない時代に取りすぎた魚の利用法として蒲鉾が作られた。その中でも小田原は蒲鉾づくりに最適な水と魚に恵まれている。

蒲鉾のおすすめの食べ方・切り方 文責：荒巻 裕司

蒲鉾の板には防腐効果があるので、食べきれないときには、板につけたままにして保存するのが日持ちのコツ。切るときにも板は取らずに、先に包丁を入れるのが正しい。また、包丁で切るときは厚めに切るとよい。

蒲鉾と健康 文責：荒巻 裕司

①**免疫**—免疫力とは、体に病原菌やウイルスが侵入しないように防衛する機能のことだ。そして、タンパク質は免疫力をつくるために必要であり、蒲鉾に入っているため、免疫力が高まるのである。

②**老化防止**—高齢になると筋肉量の減少などにより、足腰が衰え、骨折し、寝たきりの状態になるきっかけになってしまう。それを、防ぐにはタンパク質が必要。そのため、蒲鉾は老化防止になりやすい。さらに、魚のタンパク質は体内で消化されやすく、特に、水産練り製品は消化性が高い。だから、蒲鉾は老化防止になるのである。

③**スポーツ・筋肉・ダイエット**—筋トレは筋肉に負荷をかけることにより、筋肉の成長を促す効果がある。また、筋肉は刺激を受けるとタンパク質を吸収しようとする。したがって、筋肉がたくさん合成されて筋肉量を増やすことができるのだ。また、それによって基礎代謝が上がるため脂肪を燃焼しやすくなる。加えてタンパク質は食欲を抑える効果もあり、健康的にやせやすい体をつくることができるのだ。



【写真：蒲鉾に使う魚のすり身】

かまぼこ資料館 文責：松崎 悠人

神奈川県小田原市にある「かまぼこ資料館（鈴廣かまぼこ博物館）」は、伝統的なかまぼこ作りの技術や歴史を学べる体験型のミュージアムだ。小田原の老舗かまぼこメーカー「鈴廣（すずひろ）」が運営しており、日本の食文化としてのかまぼこの魅力を伝えることを目的としている。館内には、見学スペースだけでなく、体験工房や飲食施設もあり、子どもから大人まで幅広い世代が楽しめるように工夫されている。かまぼこ資料館は、主に以下の2つのエリアに分かれている。

①**展示エリア**—かまぼこの歴史・製法紹介



【写真：日本で蒲鉾に使われる魚の展示(左)／蒲鉾職人が使う道具の説明(右)】

②手作り体験教室－かまぼこ・ちくわづくり

館内に入るとまず目に入るのが、かまぼこの歴史や文化を紹介する展示コーナーだ。ここでは、かまぼこの起源から現代に至るまでの流れを、模型や映像、資料で分かりやすく学ぶことができる。特に印象的だったのは、江戸時代や明治時代のかまぼこづくりに使われていた道具の実物展示で、当時の職人の工夫や技術の高さを感じられた。



【写真：体験教室のキッチン】

かまぼこ資料館の大きな特徴のひとつが、本物の工場を見学できることだ。見学通路からは、ガラス越しに職人が実際にかまぼこを作っている様子を間近で見ることができる。特に、板にすり身をのせて形を整える「板付け」の作業は、熟練の技が求められる工程で、手際よく、均等に、そして美しく盛りつけていく様子には感動すら覚えた。ただし、水曜日は職人の作業が休みのため、実演を見たい場合は別の曜日に行くのがおすすめである。

この資料館でもっとも人気なのが、「かまぼこ・ちくわの手作り体験教室」だ。事前予約が必要ですが、専用の工房で実際にすり身を使い、かまぼこやちくわを一から作ることができる。かまぼこづくりでは、すり身を板の上に自分で盛りつけ、蒸して完成させることができる。また、蒸したものは持ち帰り可能だ。ちくわづくりは、棒にすり身を巻きつけ、その場で焼いて食べることができる。体験中はスタッフの方がやさしく丁寧にサポートしてくれるため、小さな子どもでも安心して参加できる。

体験教室の側には、かまぼこに関するさまざまな情報を紹介する常設展示がある。例えば、かまぼこに使われる魚の種類や、すり身の性質、栄養価などが科学的に解説されており、食育の面でも学びが多い展示となっている。また、通路には巨大な「かまぼこオブジェ」が展示されており、かまぼこ文化をアートとして表現したユニークな試みも見られる。資料館は、鈴廣グループが展開する「鈴廣かまぼこの里」の一部として運営されており、周辺には以下のような施設も併設されている。

③鈴廣本店－伝統的なかまぼこの販売。お土産に人気。

④鈴なり市場－地元の農産物や食品が並ぶ市場。

⑤えれんなごっそー地元食材を使ったビュッフェレストラン。

⑥名水甘味 且座（しゃざ）－和スイーツや抹茶を楽しめる甘味処。



【写真：鈴廣かまぼこの里のようす（4枚）】

かまぼこだけでなく、地域の食文化全体を体験できる点が魅力だ。かまぼこ資料館（鈴廣かまぼこ博物館）は、単に見学するだけでなく、「作って、見て、学んで、食べて」楽しめる体験型の施設だ。日本の伝統食品であるかまぼこの奥深さに触れると同時に、職人の技術や食文化の大切さを再認識させられる場所だった。

かまぼこ作り体験 文責：岡崎 里杜

昼ご飯を食べてすぐ、鈴廣かまぼこの里に向かった。受付から髪をおおう白い帽子とエプロンをいただいた。髪をしまって毛が落ちないようにしているところや、作る前にしっかりと手洗いをするとところなどをみると、衛生面に気を付けているんだなと感心した。やはり職人は毛ひとつ落とさないように細心の注意を払っているのだと改めて感じた。軽い挨拶の後、さっそくかまぼこ作りが始まった。といっても目の前に魚のすり身のかたまりを置かれただけの自分は「何をどうすれば？」という状態だった。ということではまず職人の技を観察するところからだった。これがまた速い、速い。目の前の魚のすり身が手際よく板にはりつけられ、あっという間にいつも見るかまぼこに変身した。まさに電光石火だった。そんな職人の技を見た後、今度は丁寧に作り方を教わった。ち

なみに、ひとつのかまぼこに7～8匹の魚が使われているのには驚いた。

まず、かまぼこに空気が入らないようによく練る作業をした。使うのは、先が尖っていないナイフで、すり身をすくってはひっくり返して押し付けてたたくことを繰り返した。これはのちに分かったことだが、自分の作ったかまぼこに少し穴が空いていた。こんな小さな穴も作らない職人はすごいなと感じた。やはり経験の差というのは大きいと思った。次に、すり身を板状にして、板にはりつける作業をした。板ですり身を少しずつ押しながら、ナイフで板にはりつけた。すり身を余すことなく使うために、ナイフについたすり身はまな板のはじでこそげて再利用するという手法はフードロスを削減できるので、素晴らしいと思った。また、ナイフの先を使って表面をツルツルにした。



【写真：かまぼこづくり体験のようす】

かまぼこを作って蒸し器に入れた後、休む間もなく、ちくわづくりが始まった。正直、単に棒にすり身を巻きつけるだけで、かまぼこよりは簡単だと思っていたが、意外に多くの手順をふんで作るので、難しかった。かまぼこと同じように空気

を抜いたあと、長方形の板状にしてから、ナイフでまな板からはがしながら棒に巻きつけていく作業をした。（←これが一番難しかった）切れ目ができないようにすり身でしっかりとくっつける部分も面白かった。そんなこんなで作ったかまぼこたちくわは、そのあとすぐにいただいた。普段あまり食べないかまぼこは、手作りなのも相まってとても特別感があっておいしかった。ちくわは、市販のものと比べて分厚く、よりお魚のプリプリした弾力が楽しめた。

写真の自分が作ったかまぼこは形や高さが違うのも手作り感がある。



【写真：手作りの蒲鉾(上)とちくわ(下)】

5. 巡検旅行記

最後の巡検地『小田原』 文責：橋本 弓彦

今回の巡検地は「神奈川県小田原市」。池袋、新宿から JR 線や小田急線を利用して乗り換え無しで行くことができ、東京、名古屋、大阪方面からの東海道新幹線こだま号、ひかり号が停車する上、古くから東海道が整備されるなど交通の要所としての印象を受けた。私はこの巡検では、小田原城の見学した後に小田原の名産品である「かまぼこ」作りを体験できる班に参加した。

最初の活動は小田原城の見学であったが、私は誤って新宿駅から新木場方面の電車に乗ってしまい、1 時間弱遅れての巡検開始となった。そのため、小田原城天守閣だけしか見学できなかった。小田原城天守閣は私が今までに行った金沢城、岐阜城とは違った様子が見受けられた。小田原城天守閣は 1 階から 5 階全てが城であったことがわからないほど大規模に改装され、展示室となっていた。そのため、江戸時代の小田原城、戦国時代の小田原城、小田原ゆかりの展示物など様々なテーマの様々なものが展示されそれぞれの内容も充実しており、見学にかなりの時間を要した。また、天守閣 5 階の展望デッキからは相模湾、伊豆半島、足柄山地を望むことができ、小田原城の優れた点も垣間見ることができた。



【写真：小田原城天守閣(左)／相模湾と伊豆半島(右)】

次に『鈴廣かまぼこ博物館』にてかまぼこ、ちくわの手作り体験に参加した。体験中はスタッフの方の説明や職人の方の手際良い作業のもと、行われた。この体験を通して、魚のすり身は調理方法によって様々な料理になるなどの学びやかまぼこ職人の大変さ、凄さを学ぶことができた。また、体験後実際に作ったかまぼこ、ちくわが出来上がるまでの間には、施設内にあるかまぼこにつ



【写真：小田原漁港の漬け丼】

いてなどの展示や「かまぼこ板」を用いた芸術作品が展示を見学することができたり、付近にある『鈴廣かまぼこの里』で土産物などを買うことができたり、待ち時間を有意義に過ごすことができる。完成はかまぼこより早くちくわが出来上がり、焼き立てを食べることができた。その後、箱根登山鉄道で小田原駅に集合、解散し、学校生活最後の巡検を終えた。



【写真：実際に作ったちくわ】

小田原旅行記 文責：上野 開都

小田原は東海道の宿場町として栄えた。また江戸時代箱根の玄関口として東海道最大の宿場町として活躍し、戦国時代では日本初めての戦国大名の本拠地としていた場所である神奈川県を代表する観光地になった。今回の巡検では戦国大名北条早雲の本拠地である小田原城と小田原名物のかまぼこを作ることができる鈴廣蒲鉾の里に行った。初めに小田原駅から小田原城へと向かった。今は城下町ではないが東海道五十三次の絵が描かれているところがあり、小田原らしさを感じた。近づいていくと城が見え始め、とてもカッコいい。

小田原城に入ると最初に門があり、馬出門と言う。この門は少し小さめの門で攻める側も入りやすかっただろうと考えられた。次に銅門があった。この門は昔から敵の侵入を防いでいた門として小田原では有名な門である。通ってみると上には石落としの設備があり、強そうだと感じた。最後に常盤木門という門があり、この門も銅門に似たような作りをしていた。階段を登った先に門があるため、攻めづらい作りをしていると感じた。



【写真：小田原城址の石碑】

このような感じで登った先に右の写真の城が見える。入館料は中学生は 200 円で意外と安かった。中に入ると博物館になっていて、戦国時代の小田原城の写真や家紋、鯨鉾など文化財の展示や小田原城の歴史の展示をしていた。また、上から見る景色は絶景で小田原城の立地の良さを感じた。他にもお土産が売って

いる売店があり、外国人観光客や日本人観光客で賑わっていて微笑ましい光景であった。

次に小田原城から小田原駅に向かった。小田原駅にある海鮮丼屋に行こうとしたが、巡検日が日曜日だったので行列ができており、この後の予定もあるため、残念だったが断念した。どこも混んでいてどうしようもなかったので仕方ないがチェーン店で食べた。次からは地元のスーパーでそ



【写真：小田原城天守閣】



【写真：箱根登山鉄道】

の場所で作ら

れているものを食べたい。最後に鈴廣蒲鉾の里に行った。この場所は箱根登山鉄道風祭駅徒歩 3 分にあり鈴廣蒲鉾の売店は駅直結であった。小田原駅から箱根登山鉄道に乗ったが揺れが激しく、本当に登っている感じがして面白かった。

風祭駅に着くと、歩いてすぐに蒲鉾の売店があつて小田原らしさを感じた。かまぼこを作るところは、かまぼこ博物館にあったが、中に入ると早速魚の匂いがした。最初にかまぼこをどうやって作るか見るところがあり、かまぼこが 1 個あたり魚 7 匹分あることに驚

いた。その後かまぼこを作る体験をした。職人が来てくれて蒲鉾の作り方を教えてくれたが 30 秒余りで蒲鉾を作っていたので圧倒された。そこから作ってみたが蒲鉾の形を整えるのが難しく改めて職人技だと感じた。蒲鉾以外にもちくわを作ったが形を作るのが難しかった。しかし職人の助けもあり、綺麗に作ることができた。職人がちくわを焼いている間、私はかまぼこ博物館に行った。博物館では蒲鉾の歴史や蒲鉾の一からの作り方をわかりやすく展示していて、子供でも楽しめるものであった。30 分後、ちくわが焼けて食べる時が来た。ちくわは上手く焼けていて、食べると手作りの味がして頑張った甲斐があったと思った。



【写真：手作りちくわ】

今回の巡検では小田原の歴史と名産品について知ることができた。半年前も来たことがあるが、小田原はいつ来ても興味深い場所であると思った。この経験を活かして次の巡検地も調査していきたい。

小田原旅行記 文責：牛田 健心

6月8日（日曜日）9時30分小田原駅集合。良い天氣に恵まれ、無事集合ができました。

駅から約15分歩けば小田原城です。小田原城を見学しました。小田原城は城の中だけでなく周りも広がったです。下の写真は小田原城本殿までの道にあった門です。門の扉の上には人が入ることのできるスペースがあります。そこから弓を撃ち下ろすことができるのです。さすがですね、小田原城。小田原城へ入りました。小田原城の中は歴史あるものが多く展示されていました。とても趣があり面白かったです。天守閣からの景色は圧巻でした。

とても高く、市内が一望できました。とても気持ち良かったです。

11時30分小田原城出発。鈴廣かまぼこの里に向かいます。13時20分着。かまぼこ・ちくわ作りを始めました。材料は魚のすり身で匂いは最悪でした。かまぼこは現地で食べました。形は悪くても、自分で作ったちくわの味は最高でした。かまぼこは家で食べました。元は魚のすり身だと信じられないほど、匂いが消えてプリプリしていました。

スーパーなどで買うかまぼこよりは形は悪いですが、上手くできたと思います。とても深い味わいでした。

15時30分鈴廣かまぼこの里出発。小田原駅向かいます。16時解散。いい旅でした。



【写真：小田原駅の提灯】



【写真：小田原城内】



【写真：小田原城天守閣】



【写真：かまぼこ・ちくわ作り】

小田原旅行記 文責：切手 悠介

夏至に近づいてるということもあり、朝は明るかった。心地よい朝を迎えた後、新宿 7:30 発の小田急小田原線快速急行小田原行きに乗車した。乗車した日は日曜日ということもあり、電車は比較的空いていて、少ない車両だと数人ほどしかいなかった。

実際に小田急に乗ってみて知ったものがあった。車両の端の上の方をよく見てみると、「東急電鉄」と書かれていた。小田急に乗ってるはずなのにだ。これは、小田急が東急の車両を借りていることを表している。これは新しい発見だった。

小田急の快速急行が新宿を発車後、すぐに南新宿を通過してしまった。これは都会あるあるの、駅間隔が近いことによって起こることであると同時に、快速急行が速いことによっても起こる。この時間は 1 分も満たなかった。

その後、明治神宮に直結する参宮橋を通過し、急カーブで有名な代々木八幡を通過すると、もう代々木上原に到着した。新宿発車後代々木上原到着までたったの 5 分であった。小田急の速さが実感できる。小田急小田原線はこの駅で千代田線と接続し、千代田線の一部の列車は小田急小田原線に直通し、普通や準急や急行などとして、唐木田や向ヶ丘遊園などにまで直通する。

小田急の快速急行が小田原を発車してから 6 分後、代々木上原を発車し、小田急の長い複々線区間が始まった。途中通過駅である東北沢駅では、駅のホームのうち、北側しか見ることができないという複雑な形状の駅だった。代々木上原から東北沢までは急行線が緩行線の外側を走るという複々線の形状だったが、例外的に下北沢を除き、世田谷代田から先は緩行線が急行線の外側を走るという複々線の形状だった。前者よりも後者の方が費用がかかるというデメリットがあるが、急行線を走る列車が減速せずに済むというメリットもある。

東北沢を通過すると、下北沢に停車した。下北沢は京王井の頭線の乗り換えができるため、降りる人と乗る人は多かった。下北沢は他の駅とは違い、地下 2 階ホームが急行線、地下 1 階ホームが緩行線となっている。このホームの仕組みは新宿とは似ているが少し違っていた。新宿駅の場合は、地下 1 階ホームが緩行線、1 階ホームが急行線となっていた。

下北沢を発車すると、登戸までの 10 駅（世田谷代田、梅ヶ丘、豪徳寺、経堂、千歳船橋、祖師ヶ谷大蔵、成城学園前、喜多見、狛江、和泉多摩川）を全て通過してしまった。複々線区間のため、駅前での減速をする必要がないため、最高速度で通過する駅がほとんどであった。そのため、下北沢から登戸までの所要時間は、急行線だと 9 分、緩行線だと 19 分となり、10 分も差がついてしまう。所要時間は 2 倍以上だった。この区間は最も小田急の快速急行の速さが発揮される場所と言っても過言ではないだろう。実際に一番前の車両から前の景色を見てみると、高速で駅を通過し、すぐに次の駅を通過する

様子を実感することができた。

その後、南武線との乗り換え駅である登戸に到着した。登戸の手前には多摩川が流れていて、そこが県境となっているため、登戸は小田急小田原線の神奈川県にある駅の中で最も北にある駅となっていた。

登戸を発車すると、複々線区間が終了し、三線区間に入る。複線でもなく複々線でもなく三線になっている理由は、元々は複線だったが、新宿方面から来る向ヶ丘遊園行きの列車の本数を増やすために複々線化に取り組んでいるからだ。しかし、複々線化用地が足らず、複々線の実現はまだ先となり、今のような三線区間になっている。一部だけ複々線化用地が用意されているため、電車に乗ってもその用地が確認できた。この三線区間は短く、登戸から向ヶ丘遊園までの1駅のみであった。向ヶ丘遊園は、急行は停車するが、快速急行は通過した。さらに、この駅間は短く、所要時間は1分も満たなかった。

向ヶ丘遊園を通過した後、生田、読売ランド前、百合ヶ丘を通過し、新百合ヶ丘に停車した。新百合ヶ丘は小田急多摩線との分岐駅である上に、川崎市麻生区の中心都市にある駅となっていたため、大勢の利用客が乗降していった。そのため、一部の特急は新百合ヶ丘に停車していた。百合ヶ丘よりも新百合ヶ丘の方が圧倒的に利用客が多いのも事実であった。

新百合ヶ丘を発車すると、駅間隔が少し広くなり、それまでの所要時間は1駅あたり平均1分だったが、ここからは平均3分となった。それでも小田急の快速急行は柿生、鶴川、玉川学園前の順に通過していった。実はその間5度も県境を越していたのである。まず、柿生を出てすぐに東京都に突入し、その後すぐに神奈川県に突入した。そのまたすぐ、鶴川の手前で東京都に突入し、鶴川を出るとすぐに神奈川県に突入した。最後に県境と並走して、鶴川と玉川学園前の真ん中くらいの場所でようやく東京都に突入して終了した。

最後に東京都に入ると、ようやく町田に到着した。町田は横浜線の乗り換え駅である上に、町田市の市庁がある場所なので、利用客が非常に多かった。そのため、一部の特急列車が停車した。また、乗降客数は新宿、代々木上原に次ぎ、3位となっていた。

町田を出ると、すぐに境川が流れており、そこには東京都と神奈川県の最後の県境があった。東京都→神奈川県→東京都→神奈川県→東京都→神奈川県→東京都→神奈川県のように、合計で7回も県境を越していたのだということが分かった。

小田急の快速急行はその後、相模大野に停車した。小田急相模原線との接続駅ということもあり、相模大野で大勢の客が降りた。それにより、相模大野に到着する前は大勢いた客が、相模大野を発車すると、途端に空いてしまった。

相模大野を発車した小田急の快速急行は、長い駅間隔で、小田急相模原、相武台前、

座間を通過し、海老名に停車した。そして厚木を通過して、本厚木に停車した。さらに、開成まで各駅に止まり、栢山、富水、螢田、足柄の順に通過し、ようやく小田原に到着した。約1時間30分かかってしまった。特急に乗るべきだと思った。特急は20分ほど速い上に快適なのに、他の特急に比べて安い値段で乗ることができる。

〈参考資料〉

鈴廣かまぼこの里ホームページ <https://www.kamaboko.com>

Google 検索「小田原城下に練り物文化がある理由」A I による概要

<https://www.athome.co>

<https://ieul.jp/column/articles/30460/>

<https://www1.gsi.go.jp/geowww/landcondition/report/d2034.pdf>

<https://odawara-digital-museum.jp/kids/book/>

<https://odawaracastle.com/castlepark/tokiwigimon/>

<https://odawaracastle.com/castlepark/akaganemon/>

<https://odawaracastle.com/castlepark/umadasimon/>

<https://odawaracastle.com/castlepark/tennsyukaku/>

<https://odawaracastle.com/history/>



第六章

付記



【夏休みの帰省】ねぶた祭りについて

文責：小山内 銀志

ねぶた祭りとは、青森県で行われる、派手な色の巨大な武者の形をした、たくさんの灯籠「ねぶた」を山車に乗せて街を練り歩く祭りで、有名な会社が宣伝でねぶたを出している事もあるので見たことがある商品の形をしたねぶたなども出ています。〈写真1〉僕は、そのねぶた祭りの歴史、2025年のねぶた祭りのねぶた大賞について紹介します。

まず、ねぶた祭りの歴史についてです。1958年（昭和33年）に第一回青森ねぶた祭りが開催され、東北三大祭りの1つに指定されました。1961年（昭和36年）に大型ねぶたが20台も祭りに参加し、戦後最大の規模になり、1963年に青森ねぶた祭が青森市文化財に指定されました。1968年（昭和43年）

に初めて有料の観覧席が設けられました。1970年（昭和45年）に大阪万博にねぶたが展示されました。1972年（昭和47年）に観客動員数が200万人を突破し、第1回ミス・ねぶたコンテストが開催されました。1980年（昭和55年）「青森のねぶた」が国の重要無形民俗文化財に指定され、観覧者は300万人を超えました。1995年（平成7）大型ね



【写真1：商品ねぶた】



【写真2：「海王」】



【写真3：「鬼童丸」】

ぶたの総合最高賞である「田村麿賞」が「ねぶた大賞」に変わり、1998年（平成10）担ぎねぶたが登場しました。2001年（平成13）青森ねぶた保存伝承条例が施行され、ねぶたがイギリス大英博物館に展示されました。2005年（平成17）ねぶたが「愛知万博（愛・地球博）」に展示され、2011年（平成23）青森市文化観光交流施設「ねぶたの家 ワ・ラッセ」がオープンしました。そして、現在に至ります。

最後に、2025年のねぶた祭りのねぶた大賞についてです。様々なねぶたが出ていて、どれも凄かったです。今年のねぶた大賞は、青森菱友会の「海王」でした。制作者は7代目ねぶた名人である竹浪比呂央さんです。波が大きく表現されていて迫力がありました。〈写真2〉知事賞は、ヤマト運輸ねぶた実行委員会の「鬼童丸」でした。制作者は、6代目ねぶた名人の北村隆さんです。とても色鮮やかな作品でした。〈写真3〉

〈参考資料〉

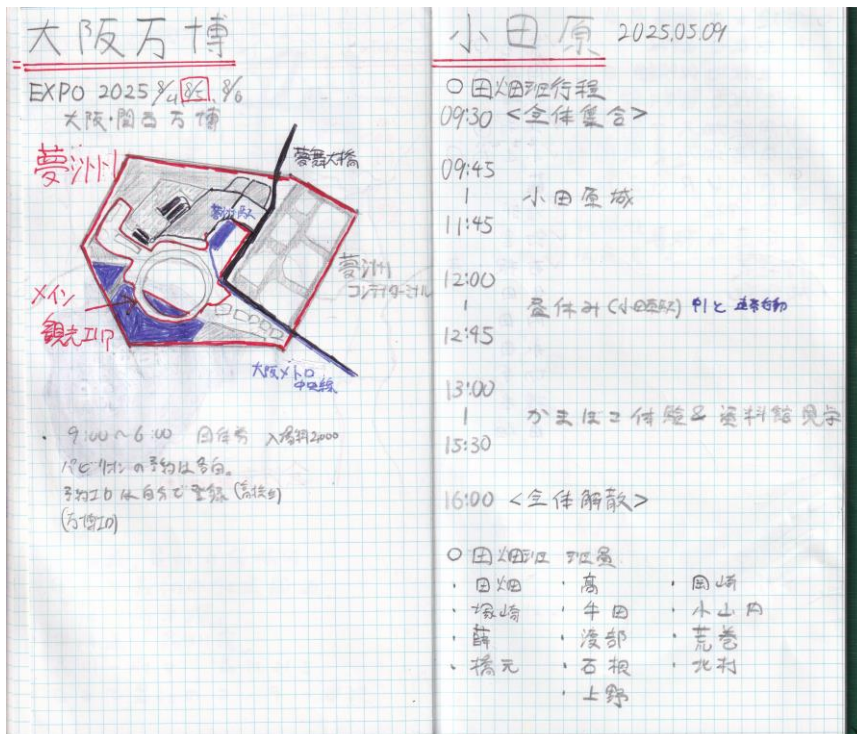
青森ねぶた祭オフィシャルサイト <https://www.nebuta.jp/>

祭り-青森県庁ホームページ <https://www.pref.aomori.lg.jp/>

副部長 田畑裕理のフィールドノート



【写真：春合宿名古屋の事前学習】



【写真：夏合宿大阪・関西万博と1学期小田原巡検の事前学習】

2025（令和7）年度 地理部員紹介

【大学入試に向けて猛勉強!!高3生部員】

◎高校3年生： 雨谷 彰悟 ・ 池田 鴻平
榎本 眞鑑 ・ 野口 琉也

【地理部の今後を担う現役部員】

◎高校2年生

○A組 遠藤 壮一郎（編集長）	○H組 薛 文森
○A組 新井 友翔（部長）	○H組 五月女 紘大
○C組 田畑 裕理（副部長）	○H組 水谷 颯（動画編集）
○D組 為野 進也	○H組 鈴木 涼太
○F組 塚崎 瑛登	○I組 安藤 隼太郎（副部長）
○G組 橋本 弓彦	

◎中学3年生

○G組 釘宮 諒

◎中学2年生

○A組 高 隼人	○C組 松崎 悠人
○B組 石根 優希	○D組 内田 淳斗
○B組 上野 開都	○D組 渡部 翼
○B組 牛田 健心	○F組 切手 悠介
○B組 永田 幸寿	

◎中学1年生

○A組 京免 怜澄	○F組 小山内 銀志
○E組 岡崎 里杜	○F組 北村 優歩
○F組 荒巻 裕司	

◎顧問

○村田 祐介 ○齋藤 譲司

2024 年度地理部 春合宿要項

日 程 3月25日(火)～27日(木) 2泊3日

宿泊場所：「名古屋金山ホテル」

住 所 : 〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山 4-6-25

電話番号：052(322)1111

行 程 往路3月25日 ひかり 637号 東京駅発9:33 → 名古屋駅着 11:14

復路3月27日 のぞみ 236号 名古屋駅発 15:06 → 東京駅着 16:45

集 合 JR 東京駅 **「動輪の広場」広場 8時50分** (厳守)

(**丸の内 地下 南口改札の外**にあります。事前に場所を確認しておくこと。)

解 散 JR 東京駅 日本橋口付近 17時00分頃

合宿中にかかる費用：総額 15,000 円程度

(内訳) 現地の交通費・・・¥3,000 程度

施設の入館料等・・・¥3,000 程度

食費・・・・・・・・・・¥6,000 程度 (2日分の夕食代+3日分の昼食代)

その他お土産代など・¥3,000 程度

緊急連絡先 : 村田携帯 xxx-xxxx-xxxx 齋藤携帯 xxx-xxxx-xxxx

持ち物

マイナンバーカード (なければ健康保険証写)・上記合宿中にかかる費用・生徒手帳・
筆記用具・着替え・雨具 (レインコートと傘を両方準備すると◎)・タオル類・
常備薬 (乗り物酔いしやすい者は酔い止め薬など)・洗面用具・デジカメやスマホなど
記録できるもの・**レジュメ・フィールドノート**

留意点

・持ち物について：

初日と最終日は、全ての荷物を持って行動することになります。荷物は最低限にまとめ、身動きがとりやすいようにして下さい。キャスター付きバッグは禁止です。

・服装について：

私服で構いません。いつもの巡検と同様、「脚」を使った調査です。動きやすい服装、履き慣れた靴で参加して下さい。

2025 年度地理部 夏合宿要項

日 程 8月4日(月)～8月6日(水) 2泊3日

宿泊場所：アートホテル大阪ベイタワー

住 所：〒552-0007 大阪府大阪市港区弁天 1-2-1

電話番号：06(6577)1111

行 程 往路8月4日 のぞみ307号 東京駅発8:09 → 新大阪駅着10:36

復路8月6日 のぞみ238号 新大阪駅発15:00 → 東京駅着17:27

集 合 JR 東京駅 「動輪の広場」広場 7時30分 厳守!!

(丸の内地下南口改札の外にあります。事前に場所を確認しておくこと。)

解 散 JR 東京駅 日本橋口付近 17時30分頃

合宿中にかかる費用：総額 17,000 円程度

(内訳) 市内見学の交通費・・・¥3,000 程度

施設の入館料等・・・¥3,000 程度

食費・・・・・・・・・・¥6,000 程度 (2日分の夕食代+3日分の昼食代)

その他、万博の会場内での買い物やお土産代など・・・・・・・・¥5,000 程度

緊急連絡先：村田携帯 xxx-xxxx-xxxx 齋藤携帯 xxx-xxxx-xxxx

持ち物

健康保険証写 or マイナンバーカード (所有者のみ)・上記合宿中にかかる費用・

生徒手帳・筆記用具・**帽子**・着替え・雨具 (レインコートと傘を両方準備すると◎)・

常備薬 (乗り物酔いしやすい者は酔い止め薬など)・洗面用具・タオル類・着替え・

熱中症対策品・デジカメやスマホなど記録できるもの・**レジュメ**・**フィールドノート**

留意点

・持ち物について：

初日と最終日は、全ての荷物を持って行動することになります。荷物は最低限にまとめ、身動きがとりやすいようにして下さい。キャスター付きバッグは禁止です。

・服装について：

私服で構いません。いつもの巡検と同様、「脚」を使った調査です。動きやすい服装、履き慣れた靴で参加して下さい。

・熱中症対策について：

水分補給が出来る準備を万全に整えて下さい。高気温で、フィールドワークの実施が難しくなった場合、途中で中止し、宿へ引き返す可能性があります。特に万博会場は暑さと混雑が見込まれますので、対策をしっかりと行って下さい。

大阪万博についての諸注意

全 22 ページに及ぶ教員向け資料が万博側から届いています。みなさんに関係のある点を要約して載せますので、**絶対に目を通して、ルールを逸脱した行為がないように心得て下さい。**学校が怒られます。

1. 当日の朝の動き

- ・ホテルから万博への入場までは全員一緒に行動します。
- ・弁天町駅から JR 線で桜島駅まで移動。詳しくは 2 日目の行程表を参照。
- ・**桜島駅から万博会場行きのシャトルバスに乗ります。新幹線と同様、みんなで一枚の切符なのではぐれたらジ・エンドです。**
- ・万博会場の入口で、齋藤が団体入場の手続きをします。入場の許可が出たら、各々に配布したチケットの QR コードをかざして入場します。
- ・全員が入場したら、グループごとに万博をおもいっきり楽しんでください。

2. 万博会場での注意点

- ・**会場内では現金が使えません。あらかじめ自分の Suica や PASMO に必要な金額をチャージしておくことをオススメします。**万博に添乗したツアコンの方の話では、ひとり 5,000～10,000 円くらいチャージしておく心安いこと。(会場内にチャージ機も設置してありますが混んでるかも…)
- ・**入場前に手荷物検査**があります。大きな荷物は持ち込めないで、余計なものはホテルに置いて、**リュックに必要最低限のものをに入れて軽装で行きましょう。**
- ・持ち込み規制品がいっぱいあります。次のページに資料を載せておくので確認しておくこと。
- ・禁止行為もたくさん書かれていましたが、全て常識の範疇です。周りの人の迷惑になる行為はしないこと。

3. 退場について

- ・**会場からの退場は東ゲートを利用**して下さい。退場の時には全員で集合しませんのでグループごとに出て下さい。退場時間の目安は 18 時ですが、遅れても大丈夫です。
- ・東ゲートを出たら各自、**夢洲駅から地下鉄に乗り、ホテルに 19 時までには戻ってきて下さい。**

4. 補足

・今回の**ちりレポおよび文化祭で一人一カ国、レポートをしてもらいます。**これは公式な地理部の活動としての実績のためです。行くからにはちゃんとした結果を残しましょう!!

おわりに

今回で23号となった本部活の機関誌であるちりレポはいかがだったでしょうか。今回は大阪、名古屋、横浜といった都市多めのラインナップで、いつも通りボリュームーな内容となりました。そして、本書は私たち部員の努力の結晶であり、活動の証です。至らない点もあると思いますが、温かい目で見てくださいと幸いです。

つい二年前まで地理部は中一と中二の部員が0人と、人口ピラミッドを作るとなると壺型になってしまうほど高齢化が進んでいましたが、必死の勧誘によりこの二年で計20人弱もの部員が入部し、現在は非常に賑やかで活気に満ちあふれた部活となっています。在校生で少しでも地理部に興味があるという方は是非体験入部に来て下さい！

そして、私自身中一の春に地理部に入部し、5年間もの間活動してきました。この5年間の活動は大きな財産であり、かけがえのない思い出です。この場を借りて、顧問の先生方、フィールドワーク先でお世話になった方々、部員の皆さん、本書を手にとって下さっている方々など地理部の活動を支えて下さっている方全てに感謝の意を表します。本当に有り難うございます。今後も本部活の活動をよろしくお願いします！

2025年9月27日

城北中学校・高等学校 地理部副部長 安藤 隼太郎

城北中学校・高等学校地理部　ちりレポ第 23 号

発　行　日：2025 年 9 月 27 日

編　集　者：遠藤　壮一郎

編集責任者：村田　祐介・齋藤　譲司

発　行　所：〒174-8711　東京都板橋区東新町 2 丁目 28 番 1 号

城北中学校・高等学校　地理部

印刷製本所：〒102-0072　東京都千代田区飯田橋 3 丁目 11 番 24 号

共立速記印刷株式会社